

Japan Council on Independent living Center

2021 年度

第 30 回協議員総会

期間：2021 年 6 月 23 日（水）15:00-17:00

全国自立生活センター協議会

目 次

1. 事業報告(案)

JIL2020 年度事業報告(案).....	P 3
JIL2020 年度決算報告(案).....	P21

2. 各委員会・プロジェクトチーム報告(案)

ピアカウンセリング委員会事業報告(案).....	P24
介助サービス委員会事業報告(案).....	P27
人権委員会事業報告(案).....	P30
政策委員会事業報告(案).....	P34
研修啓発委員会事業報告(案).....	P37
ユースパワーネット事業報告(案).....	P39
女性リーダープロジェクト事業報告(案).....	P42
精神当事者プロジェクト事業報告(案).....	P47
国際 PT 事業報告(案).....	P50
インクルーシブ教育プロジェクト事業報告(案).....	P52
JIL 脱施設プロジェクト事業報告(案).....	P58
コロナ対策本部活動報告(案).....	P60

3. 事業計画(案)

JIL2021 年度事業計画(案).....	P62
JIL2021 年度予算(案).....	P74

4. 各委員会・プロジェクトチーム事業計画(案)

ピアカウンセリング委員会事業計画(案).....	P75
介助サービス委員会事業計画(案).....	P76
人権委員会事業計画(案).....	P79
政策委員会事業計画(案).....	P80
研修啓発委員会事業計画(案).....	P82
ユースパワーネット事業計画(案).....	P83
女性リーダープロジェクト事業計画(案).....	P85
JIL 精神当事者プロジェクト事業計画(案).....	P87
国際 PT 事業計画(案).....	P89
インクルーシブ教育プロジェクト事業計画(案).....	P91
JIL 脱施設プロジェクト事業計画(案).....	P92
コロナ対策本部活動計画(案).....	P94

5. JIL 常任委員会からの提案事項(案)

JIL 常任委員会からの提案事項.....	P95
-----------------------	-----

[資料]

加盟団体一覧.....	P98
-------------	-----

2020年度 JIL 事業報告

1 2020年度 新規加盟、退会団体

1.1 新規加盟団体

なし

1.2 退会

NO	名称	所在地	理由
1	自立生活センターハンズ帯広	北海道帯広市	代表死去のため
2	自立生活センター・周南	山口県周南市	退会の申し出あり
3	C I L たすけっと	宮城県仙台市	退会の申し出あり
4	自立生活支援センター夢風船	福岡県行橋市	退会の申し出あり
5	滋賀自立生活センター	滋賀県草津市	退会の申し出あり
6	たけのこ会	神奈川県横須賀市	退会の申し出あり

1.3 加盟団体数 114 団体 (36 都道府県)

* 自立生活センター空白県

秋田、宮城、新潟、石川、山梨、長野、岐阜、高知、徳島、佐賀、長崎

2 実施事業

2.1 委員会活動の推進

2.1.1 常任委員会の開催

■第1回常任委員会 ZOOM 会議

実施日： 2020年5月7日(木)

出席者： 18名

議題： 会費の納入状況 / 総会のやり方 / zoom の活用 / ブロックごとに若手発掘企画 / JIL コロナウィルス対策本部 / 総会の準備 / 人権宣言について

■第2回常任委員会 ZOOM 会議

実施日： 2020年9月14日(月)、9月25日(金)、10月5日(月) *3日間開催

出席者： 18名、16名、18名

議題： 各委員会・各PT活動報告 / 聴覚障がい者グループ / 筋ジスプロジェクト / 抗議文、声明文について / 国や各省庁の様々な検討会・ヒアリングなどの対応について / 知的障害者の自立について / 加盟団体を増やすために / JIL30周年どうするか

■第3回常任委員会 ZOOM 会議

実施日： 2021年1月25日(月)、2月3日(水)、2月10日(水) *3日間開催
出席者： 17名、17名、18名
議題： 各委員会・各PT活動報告 / ホワイトラテ (CILで働く視覚障害者の会)
/ 連携会議で検討した議題 / 脱施設化プロジェクト / 加盟団体への働きかけ / コロナ禍でJILに出来ること

2.2 第29回協議員総会

実施日： 2020年6月23日(火)14:00~16:00
開催方法： オンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン形式
参加者数： 出席評議員数(委任状18による出席を含む) 88
議題： 事業報告 / 事業計画 / 予算 / 決算

3 人材養成

3.1 全国セミナーの開催

実施日： ~~2020年6月22日(月)~24日(水)~~ *新型コロナウイルスの影響により中止
開催方法： 仙台市中小企業活性化センター
対象者： JILに加盟する団体職員とこれからCILの設立や加盟を目指す個人
講師： —
内容： —

3.2 全国セミナーの開催(福岡開催分)

当事業の研修会は、アクロス福岡の施設予約をしていたが新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮しZOOMを使用しての開催、いわゆるオンライン型研修会に切り替えた。

実施日： 2020年12月14日(月)~16日(水)
開催方法： オンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン研修
対象者： JILに加盟する団体職員とこれからCILの設立や加盟を目指す個人
テーマ： コロナ禍で考える自立生活運動
講師： 長田直也(自立生活センター・小平) / 植田洋平(ヒューマンネットワーク熊本) / 片桐公彦(厚生労働省虐待防止専門官) / 岡山祐美(日本自立生活センター) / 日隈辰彦(ヒューマンネットワーク熊本) / 勝又文博(自立生活センターさっぽろ) / 内山裕子(ヒューマンケア協会) / 和田彩起子(自立生活センター富士) / 川崎良太(自立生活センターてくてく) / 中野まこ(自立生活センター十彩) / 伊藤弾(自立生活センター東大和) / 内海千恵子(AJU車いすセンター) / 井谷重人(自立生活センター星空) / 高橋愛実(自立生活センター星空) / 吉野裕子(町田ヒューマンネットワーク) / 船橋裕晶(自立生活センターリングリング) / 押切真人(自立支援センターおおいた) / 中曽根鈴音(自立生活センターSTEP えどがわ) / 山岸かな子(特定非営利活動法人LIC) / 勝連文緒(沖縄県自立生活センタ

ーイルカ) / 種池麻祐子(自立生活センターリング) / 今村登(自立生活センターSTEP えどがわ) / 佐藤聡(DPI 日本会議) / 川崎良太(自立生活センターてくてく) / 大野直之(全国障害者介護保障協議会) / 里中利恵(日本 ALS 協会鹿児島県支部) / 竹沢幸一(八王子精神障害者ピアサポートセンター) / 陶延彰(自立生活夢宙センター) / 船橋裕晶(自立生活センターリング) / 地村貴士(自立支援センターぱあとなあ) / 浅川都(自立生活センター・小平)

参加者： 227名

内容： ついに本格始動！インクルーシブ教育プロジェクト！ / 虐待について学ぼう～障害者虐待防止法とその課題 / わたしたちは地域を選んだ～過去現在そして未来へ～ / どうなるピアカンの場！！ / コロナ禍での聴覚障害者の取り組み / 情勢報告 バリアフリー法関連と報酬改定 / 離島や農村部における重度障害者の 24 時間重度訪問介護(自薦ヘルパー利用) / 神出病院(精神科)虐待事件の報告と精神障害者の地域移行の課題 / 知的障害者の自立生活について

3.3 JIL 運営研修会

当事業の研修会は、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮し ZOOM を使用しての開催、いわゆるオンライン型研修会に切り替えた。

3.3.1

実施日： 2021年3月30日(火)

開催方法： オンライン会議ツールである ZOOM を利用したオンライン研修

対象者： 代表・事務局長(当事者運営責任者)

健常者スタッフ(コーディネーター、サービス提供責任者)

テーマ： CIL の当事者主体を改めて考える

講師： 井谷重人(自立生活センター星空) / 平下耕三(自立生活夢宙センター)

参加者： 86名

内容： 当事者主体と健常者スタッフ・ヘルパーとの関係づくり / 次世代について

3.4 新規リーダー育成事業

今年度も研修会に参加したいが、財政的に自己資金での参加が難しい団体スタッフ(JIL に加盟団体)を対象に参加費助成を予定していた。今年度は参加費助成の実施なし。

4 キリン福祉財団助成事業

公益財団法人キリン福祉財団様より JIL に対して総額 250 万円のご助成をいただいた。障害の種別、多様性を超えた自立生活拡大に向けた取り組みとして、下記のとおり活動助成事業予定している。

* 年度途中にキリン福祉財団様より「今年度(2020年度)の事業は1年延長します」とご連絡いただいた。

活動の自粛を余儀なくされ、また今後も発生するであろう新たな課題に対応するために、今年度の活動は、感染予防に細心の注意を払って取り進めて頂き、令和3年度は既存の計画の単

なる延長ではなく持続可能な活動への見直しを行ったうえで取り進めて頂けたらとの方針を伝えられた。

今年度は、コロナ禍で行えている事業については助成金を充てている。

N0	助成事業名	助成額
1	自立生活運動の「価値」を伝える普及啓発事業	¥800,000
2	女性リーダープロジェクト事業	¥1,400,000
3	精神障害者支援プロジェクト	¥300,000

5 障害者の差別と虐待防止センター設立準備事業

菅原弁護士(頸椎損傷)と協力して自立生活センターが困っている課題について、弁護士を使っての抗議・交渉が必要と思われる案件と、我々当事者団体による交渉で解決できる問題とを仕分けし、権利擁護活動を積極的に展開することになっている。

6 障害者の地域生活の確立を求める全国大行動

障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動実行委員会には、自立生活センターやヘルプセンター、作業所やグループホーム等、障害者の自立支援に取り組んでいる全国各地の639の障害者団体・126の個人が参加している。身体、知的、精神障害、難病といった様々な障害当事者団体が集まり、障害種別を超えて地域生活・自立生活を実現できるサービス・法制度を求め活動を続け、平成16年以降引き続き実行委員会の事務局を担っている。今年度の活動状況は下記のとおり。

2020年6月26日	大行動事務局会議(ZOOM形式)
7月12日	大行動事務局会議(ZOOM形式)
7月30日	報酬改定ヒアリング
11月4日	大行動事務局会議
2021年1月8日	大行動世話人会議
2月8日	厚労省交渉

7 情報提供

7.1 お問い合わせ対応

JIL事務局には、加盟団体・地域・マスコミの方々から多くのお問い合わせをいただいている。内容については、ホームページやメーリングリストの運用や委員会活動・セミナー・JIL関連の発行物などの日常業務が主であるが、ピア・カウンセリングや精神当事者の支援についても毎年多くの情報提供のお問い合わせいただいている。主な問い合わせ以外の内容は、以下の通り。

- ・ピア・カウンセリング関連 6件
- ・精神当事者から地域支援について 10件
- ・議員・マスコミ問い合わせ 16件
- ・新型コロナウイルス関連含む 14件

2020年度は46件(無言電話など相談に至らなかったものは除く)となっている。事務局で答えられない場合には、常任委員会・委員会・プロジェクトに対応依頼している。

7.2 JIL 会員用メーリングリスト、ホームページの運営

メーリングリストによって最新情報の提供、会員同士の情報交換、ネットワークの構築に努めると共に、ホームページを随時更新し、広く一般社会に情報提供を行った。

メーリングリスト管理状況 (JIL 事務局が管理・在籍確認をしているメーリングリスト)

NO	メーリングリスト名	登録数	アドレス
1	人権委員会	17	jil-jinken@jil.sakura.ne.jp
2	九州ブロック	34	jil-kyusyu@jil.sakura.ne.jp
3	政策委員会	18	jil-seisaku@jil.sakura.ne.jp
4	ユースプロジェクト	9	youth@jil.sakura.ne.jp
5	常任委員会	27	jil-yakuinn@jil.sakura.ne.jp
6	JIL メーリングリスト	361	jil-member@jil.sakura.ne.jp
7	尊厳死メーリング	72	antisongenshi@jil.sakura.ne.jp
8	JIL 中部ブロック	24	jiltyubu@jil.sakura.ne.jp
9	大行動事務局ML	27	dai_kou_do_jimu@jil.sakura.ne.jp
10	大行動世話人	42	daikoudou_sewanin@jil.sakura.ne.jp
11	精神当事者PT	7	seishin-s@mlgw.j-il.jp
12	介助サービス委員会	8	jil-kaijo@mlgw.j-il.jp
13	インクルーシブ教育推進PT	9	jil-k@mlgw.j-il.jp
14	北海道・東北ブロック	15	jiltouhoku@mlgw.j-il.jp
15	中国・四国ブロック	32	chushikoku@mlgw.j-il.jp

8 後援承諾

加盟団体及び関連団体等が主催する 4 件の事業等に対して、JIL が事業等の趣旨に賛同し、奨励の意を表して名義の使用等を承諾した。

日本バリアフリー協会 / バリアフリー障害当事者 リーダー養成研修実行委員会 / 呼ネット
～人工呼吸器ユーザー自らの声で～ / C I L もりおか (順不同)

北海道・東北ブロック

1. ブロック会議構成

- ・ 対象となる団体は、現在 13 団体。内 11 団体が JIL 加盟。
- ・ ブロックのスカイプ会議にレギュラーで参加をしている団体は、10 団体。
- ・ 幹事事務局は、4 団体。

<構成団体>

- ・ 自立生活センター・さっぽろ（JIL 加盟、会議レギュラー、勝又氏）
- ・ 自立生活センター北見（JIL 加盟、会議レギュラー、渡部氏）
- ・ CIL ラピタ（JIL 加盟、会議レギュラー、佐藤祐氏）
- ・ 自立生活センターPing あおもり（JIL 加盟、会議レギュラー、佐藤広氏・白戸氏）
- ・ 自立生活センター青森（JIL 加盟、会議レギュラー、和田氏）
- ・ CIL もりおか（JIL 加盟、会議レギュラー、川畑氏）
- ・ ~~CIL たすけっと（JIL 加盟、会議レギュラー）~~
- ・ ~~障害者自立生活支援センターフリーワールド（JIL 加盟）~~
- ・ 自立生活センターほっとらいふ（JIL 加盟、会議レギュラー、梅津氏・鈴木氏）
- ・ NPO IL センター福島（JIL 加盟）
- ・ 福祉のまちづくりの会（JIL 加盟、会議レギュラー、遠藤氏）
- ・ あいえるの会（JIL 加盟、会議レギュラー、橋本氏）
- ・ NPO いわき自立生活センター（JIL 加盟）
- ・ NPO 法人アイアンドユウ（JIL 非加盟）
- ・ 自立生活センターくらすべ Akita（JIL 非加盟、会議レギュラー、鷺谷氏）

2. ブロック会議（定例）

(1) 日時

毎月 1 回 第 2 火曜日 13:30～約 2 時間

(2) 開催方法

スカイプ（JIL 事務局がホスト）

(3) 司会進行

団体持ち回り

(4) 内容

- ① 事業計画
- ② 各センター活動・近況報告
- ③ 相談（困っていることや他センターに聞きたいこと等）

<会議実施状況>

- ・ 2020年05月12日 7団体参加
- ・ 2020年06月09日 8団体参加
- ・ 2020年07月14日 5団体参加
- ・ 2020年08月11日 7団体参加
- ・ 2020年09月08日 8団体参加
- ・ 2020年10月13日 8団体参加
- ・ 2020年11月10日 8団体参加
- ・ 2020年12月08日 6団体参加
- ・ 2020年01月12日 7団体参加
- ・ 2020年02月09日 9団体参加
- ・ 2020年03月09日 8団体参加

<主な各センターの関心事>

- ・ コロナ対策の工夫（ILP・ピアカウンセリング等）
- ・ コロナ禍の福祉サービスについて
- ・ 令和2年7月豪雨と水害について
- ・ 福祉ホームの開所
- ・ JRへの要望ブロックでの若手の活動について
- ・ 女性プロジェクトのたすき企画を実施（盛岡から郡山）
- ・ 真夏時の対応について
- ・ 新幹線のバリアフリー化について
- ・ CP二次障害勉強会&座談会について（北見、ラピタ、あいえるの会）
- ・ 学校のバリアフリーの要望書提出
- ・ 求人の状況について

3. その他

- ・ 若手交流会の企画（来年度に持ち越し）

2020年度 関東ブロック報告（案）

① 活動

- ユース企画 ZOOM交流会
- TIL（東京都自立生活センター協議会）の企画に合流

② ユース企画 ZOOM交流会報告

1. 企画メンバー

伊藤弾（自立生活センター・東大和）ユースプロジェクト
内山裕子（ヒューマンケア協会）ユースプロジェクト
井上黄五（ヒューマンケア協会）ユースプロジェクト
秋山浩子（自立生活センター日野）

2. 会議方法：ZOOM

3. 目的

若い世代（CILに関わり始めて浅い世代）の横のつながりをつくる。これからCIL（運動）に関わりたいと思っている人たちを発掘したり、同じ世代の連携を深める。ユースパワーネットで活動できる人を増やしていく。そのために、まずお互いの顔を知るところから始めて関係作りをする。

4. 内容

- 交流会タイトル：JIL ユース（関東ブロック）主催☆
関東ブロックネットワーキングパーティー
～ネットワークを広げて一緒に世界を変える仲間を増やそう～
- 日時：2020年11月17日（火）13：00～15：00
- イベント対象者：CILに関わり始めて10年以内の障害当事者
- 参加方法：ZOOM
- 参加人数：14名（男性5名 女性9名）
- プログラム：
 - ・ イベント趣旨の説明
 - ・ 乾杯のあいさつ
 - ・ 2グループに分かれてグループワーク
～好きな飲み物やお菓子を食べながらリラックスして参加してください♪～
自己紹介（氏名、呼ばれたい名前、所属センター名、センターでの役割）
関東ブロックとして今後取り組んでいきたい活動について
 - ・ 休憩
 - ・ 全体に戻して、それぞれのグループワークの内容を発表
- 5. 参加者から出た今後取り組んでいきたい活動・感想
 - ・ 「ピア・カウンセリングについて学びたい」

- ・「近隣のセンターと協力して特別支援学校を訪問し、自立生活センターの活動や自立生活運動について知ってもらいたい」
- ・「趣味の音楽を活かして音楽とコラボレーションしたイベントを企画したい」
- ・「他のセンターの人と交流したことがなかったので話せてよかった」
- ・「コロナの影響でリモート開催になったが却って参加しやすかった」

6. 今後について

- 交流会参加者を中心に ML を作成する
⇒ イベント情報の発信や情報交換、交流を目的
- 関東ブロックユース活動実行委員を増やす
⇒ JIL ユースプロジェクトの委員を中心に関東ブロックのイベントの企画・運営を担っていく人材発掘を行う

③ 2020年度振り返り

ユースの企画は実行できたが、それ以外の活動が出来なかった。ブロック活動の企画や運営に関わってくれる人や団体がいない。来年度もユース中心で企画しながら、ブロック全体の活動を活発にする取り組みを考えたい。

2020年度 中部ブロック事業報告（案）

1. ブロック会議の実施について

①対面会議

6月のJIL総会・12月の全国セミナー時に、対面会議を実施しようと計画していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

②Zoom会議

ブロック研修開催に向けて、自立生活支援センター富山、自立生活センター Com-Support Project、中部ブロック常任委員（笠原・中野）およびJIL事務局でZoom会議を行なった。

実施日：5月15日、6月23日、7月28日、8月31日、9月30日、10月22日、11月16日、12月21日、
1月18日、2月15日

内 容：ブロック研修準備、振り返り

2. ブロック研修について

当初は会場（富山県）に集まったの対面でのブロック研修を予定していたが、新型コロナウイルスの影響を鑑みて、オンライン（Zoom）開催となった。

開催日時：2021年2月1日（月）、2日（火）ともに13時30分～15時30分（13時開場）

担当者：自立生活支援センター富山（浅木、八島）

自立生活センター Com-Support Project（市村、小林）

常任委員（自立生活センターこねくと・笠原、自立生活センター十彩・中野）

参加者：1日目 33名、2日目 35名、交流会 18名

参加団体：《愛知》AJU 車いすセンター、自立生活センター・生活塾、岡崎自立生活センターぴあはうす、自立生活センターアクセル、自立生活センター十彩《静岡》自立生活センターアスト MIL、自立生活センターこねくと、自立生活センター富士《長野》CIL 上田 Groping《新潟》にいがた自立生活センター・まいらいふ《富山》自立生活支援センター富山《福井》自立生活センター Com-Support Project

【1日目】テーマ：持続可能な自立生活センターにしていくために世代交代を考える

対談：高橋美絵氏（岡崎自立生活センターぴあはうす 理事長）

浅木裕美氏（自立生活支援センター富山 事務局長）

内容：・世代交代に関する経験や工夫についてのお話を伺った。

・グループに分かれて、世代交代についてそれぞれが感じることを聞き合った。

・どのように次世代を育てていくか、健常スタッフにどう運動体の理念を伝えていくかなど、どのCILも世代交代に関して課題を抱えていることがわかった。

【2日目】テーマ：新型コロナウイルスを正しく知り、共存していくためには

講師：岩崎博道氏（福井大学医学部医療環境制御センター感染制御部）

内容：・感染のリスクを正しく知ることで、私たちができる予防対策について考えることが

できた。

- ・コロナ禍における各地の取り組みの報告を行なった（愛知、富山、新潟、福井）
- ・思うように活動ができない状況でも、工夫して活動している GIL がたくさんあることがわかった。

【交流会】担当：和田彩起子（自立生活センター富士）、中野まこ（自立生活センター十彩）

内容：・①クイズ「どこのセンターでしょう？」②イントロクイズ、③フリートーク

- ・クイズは、答えとなるセンターを紹介する問題文をグループごとに考え出題するというもので、センターの特色がわかり盛り上がった。
- ・新型コロナウイルスの影響で直接会う機会は減ってしまったが、オンラインを活用して交流することができ、センター同士の結びつきが強くなると良いと思う。

3. ユースの活動について

ユース PT の活動の一環として、中部ブロックのユースを盛り上げようと、2020年7月よりユース企画を Zoom で行なっている。

【担当】中野（自立生活センター十彩・愛知）、和田（自立生活センター富士・静岡）

【企画会議】

7月8日 悩みややりたいこと

※初心者向け「ゆるりかふえ」と活動している人向け「学習会」を隔月で行うこととなる
(参加者4名)

8月4日 イベント企画について(参加者6名)

9月11日 ゆるりかふえの振り返り(参加者5名)

10月12日 学習会企画(参加者4名)

12月11日 学習会振り返り・今後の活動(参加者5名)

3月19日 2020年度振り返り(参加者5名)

【初心者向けゆるりかふえ】

9月4日 見えない所の掃除どうしてる？①排水溝の掃除 ②洗濯ネットの掃除(参加者8名)

11月6日 自分のプライベートどう守る？

①他の利用者さんの事を話してきたとき

②ヘルパーさんに〇〇したらどう？と言われたとき(参加者7名)

1月13日 コロナ対策どうしてる？

①自分がしているコロナ対策 ②ヘルパー事業所側でしているコロナ対策

③コロナ禍の余暇の過ごし方(参加者4名)

3月5日 介助者と、家族、友人、恋人とのかかわり

①ヘルパーさんの待機場所について ②かかわり方の工夫(参加者9名)

(感想)・新しい出会いがあってよかった。

- ・何回か行っていくうちに、今後のことについても前向きな話もできるようになった。
- ・同じ悩みを持つ仲間と出会えて、オンライン上でも近づけているような気がした。
- ・オンラインだからこそいろんな人と関わる時間が増えて良かった。

・CILに関わってない人も呼んだ。そういう所から広めていきたい。

【活動している人向け学習会】

12月4日 自分史『運動に関わるまで、そしてこれから～私たちが生きてきた証～』

講演者：宇佐美道（自立生活センター・生活塾）・和田彩起子（自立生活センター富士）
（参加者 17名）

2月5日 自分史『運動に関わるまで、そしてこれから～私たちが生きてきた証～』

講演者：鈴木雄（サマリアハウス）・久田李菜（自立生活センターアクセル）（参加者 18名）
（感想）・自立するまでの悩み、周りの協力を頼っていいということを再度確認できた。
・自分が発表することで、自身の練習の場（スキルアップ）となった。



画像① ゆるりかふえの Zoom 画面。参加者とカフェでくつろいでいるような画像が表示されている。



画像② 学習会にて、久田さんが講演している様子。海外旅行に行った際の写真が表示されている。

文責：自立生活センター十彩

関西ブロック報告

メインストリーム協会 藤原勝也

第一回幹事会

日時：2021年2月24日（水）15：30～17：00

内容：2021年度の企画、ユースパワーネットへの関西からの人選

第二回幹事会

日時：2021年3月29日（月）15：00～16：00

内容：2021年度の計画

→年度二回の学習会実施決定（予定：障害者差別解消法見直し、意思決定支援等）

ユースパワーネットへの人選

→一人推薦することが決定

中国・四国ブロック報告 2020 年度

コロナ禍でのオンライン会議に慣れてきたと思う。出席するメンバーが決まりつつあるものの、毎月の定期的な会議は滞りなく行われている。会議では、センターごとの報告に時間を割きすぎてしまい、ブロックとしての研修会や交流会の企画計画があまり進んでいない。

2月22日に、高知 CIL アライズの村田一平氏が亡くなられた。高知はもちろんのこと、四国のメンバーとして、パワーアップ委員会の一員として大切な仲間を失う事になった。彼の意味を受け継ぎしっかり活動していきたい。

1)

■中四国ブロックキャッチフレーズ:「一生を煌めかせろ!ここで繋がる中四国ブロック」

■パワーアップ委員会ビジョン:「日本一愛されるブロックにする」

2) 組織

■構成団体

<中国地方>

鳥取県 障害者生活支援センターすてっぷ

島根県 CIL 松江

岡山県 岡山自立生活応援センター

広島県 CIL おのみち

広島県 障害者サポートセンターtogether 広島

広島県 NPO 障害者生活支援センター・てごーす

広島県 CIL びんご(未加盟)

広島県 CIL ふくやま(未加盟)

山口県 CIL 下関

山口県 CIL 宇部

<四国地方>

香川県 自立生活センター高松

徳島県 自立生活センターとくしま(未加盟)

高知県 CIL アライズ(未加盟)未定

高知県 土佐の太平洋高気圧(未加盟)

愛媛県 CIL 星空

愛媛県 自立生活センター松山

愛媛県 障がい者生活支援センターぐっどらいふ(未加盟)

■パワーアップ委員会

“中四国を愛されるブロックにしていく”ための若手を中心としたグループ
(2019年4月発足)

<メンバー構成>

- ・ NPO 障害者生活支援センター・てごーす 畑 俊彦
- ・ CIL 下関 宅野 瑠美
- ・ 自立生活センター松山 加藤 陽子(10/7~参加)
- ・ CIL 星空 宇高竜二・三ツ井 真平
- ・ 自立生活センター徳島 内田 由佳
- ・ CIL 星空 井谷 重人(見守り)

※メンバー募集をした結果、2名の申し込みがあった。

3) 定例会議

■中国と四国でそれぞれ地域別にリモート会議 (3ヶ月に1回)

■パワーアップ委員会リモート会議 (3ヶ月に1回)

■全体 Skype 報告・リモート会議 (3ヶ月に1回)

○開催状況

04月13日(月)19:00~21:00 地域別(四国): Zoom 会議

04月13日(月)19:00~21:00 地域別(中国): Zoom 会議

05月11日(月)19:00~21:00 パワーアップ委員会

06月25日(木)13:00~15:00 全体会: Zoom 会議

07月13日(月)19:00~21:00 地域別(四国): Zoom 会議

08月05日(水)14:00~16:00 地域別(中国): Zoom 会議

08月17日(月)19:00~21:00 パワーアップ委員会(中国)

09月24日(木)13:00~15:00 全体会: Zoom 会議

10月12日(月)19:00~21:00 地域別(四国): Zoom 会議

10月21日(水)14:00~16:00 地域別(中国): Zoom 会議

11月16日(月)19:00~21:00 パワーアップ委員会: Zoom 会議

★中国地方の ZOOM 交流会を 11 月 30 日に開催

12月21日(月)14:00~16:00 全体会: Zoom 会議

01月18日(月)19:00~21:00 地域別(四国): Zoom 会議

01月 地域別(中国): LINE 会議

02月 パワーアップ委員会: Zoom 会議流れました。

03月18日(木)13:00~15:00 全体会: Zoom 会議

4) 企画・イベント

○JIL 中国四国ブロック ピアカンセッション会

3/21(日) 13:30-15:30 Zoom

企画・リーダー

- ・梅坂 (障害者サポートセンターtogether 広島)
- ・井谷 (CIL 星空)

オーガナイズ

柴田 (CIL 星空)

参加人数 : 16 名

「Zoomで繋がる」をテーマに開催した。梅坂さんの活躍もあり、皆が繋がり合える実感を持って、とても盛り上がった。「今後も定例で行っていきたい」との声も多いので、来年度の事業計画に盛り込んでいく予定。

以上

2020年度 九州ブロック活動報告（案）

1. ブロック会議開催日

2020年4月23日
2020年5月21日
2020年6月18日
2020年7月16日
2020年8月20日
2020年9月17日
2020年10月15日
2020年11月19日
2020年12月17日
2021年1月21日
2021年2月18日
2021年3月18日

その他ブロック研修会に向けて各担当者会議

2. 九州ブロック研修会

新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、オンラインでの実施

内容は下記の通り

- a. 開催日時：2/23(祝) 12:00~18:00
- b. オンライン開催（zoom使用）
- c. 開催時間 12:00~18:00

プログラム

①『コロナ禍における自立支援について』

現在、筋ジス病棟に入院中のA氏。自立支援センターおおいたは、7年ほど継続して自立支援を行ってきましたが、最終的に病院を出る事に自信を持ってない状況だったそうです。しかし、このコロナ禍に突入して自由を奪われ、本気で自立を目指したいとの相談があり、令和2年4月より再度、自立に向け挑戦中です。

- ・コロナ禍における自立支援センターおおいたの対策と自立支援の在り方について
- ・筋ジス病棟からの自立支援について（進行中）
- ・A氏とのディスカッション（司会：安富/押切・A氏・）
- ・質疑応答

◆自立支援センターおおいた押切さんより自立支援の経過に沿って報告いただいた。

自立支援の途中でコロナ禍となってしまったが、本人の強い意志と病院との連携を取りながら、継続できていること。調理実習や買い物ILもオンラインで実施したこと。自立を目指しているご本人もオンラインで参加され九州ブロックの皆さんから応援メッセージを頂く等和やかな時間になりました。

②『各団体の近況報告』

各団体「今年度一番印象に残っていること」を話す。

③『九州ニューフェイスグループからの報告』

団体の垣根を越えて相互に情報交換、スキルアップ、エンパワーメントを図れる人のネットワークを強化する目的で作った九州ニューフェイスグループ。コロナの影響で活動は限られましたが、この間の取

組やこれからのことについて発表する。

- ・これまでの活動報告
- ・これからやりたいこと

◆九州ニューフェイスグループは20代から40代の若手当事者14名で活動しています。月に一度の定例会議の中で自分史の紹介や先輩の話聞く等で交流を深められています。始まって間もないチームですが、こころ山口さんが中心となり話がしやすいよい雰囲気を感じ取ることができました。今後JILユースパワーネットとの関りも期待されます。

④『特別支援学校とどう関わりを作っていくか』

障害を持つ人が、成人してから好きな場所で自分らしく暮らしていくには、子供の頃から主体性や権利意識を育てていくことが大切です。その為に自立生活センターの地域における役割は、今後ますます重要になっていくのではないのでしょうか。そこでこの時間は、これから特別支援学校とどう関わっていけばよいかを考えていきます。

- ・これまでの支援学校との関りについての実践報告
自立生活センターぶるーむ／沖縄県自立生活センター・イルカより
- ・先生の視点から／金城奈緒子さん(沖縄盲学校)
- ・生徒の視点から／愛甲花菜さん(宮崎県立清武せいりゅう支援学校高等部3年生)
- ・親の視点から／今井心子さん(宮崎県立児湯るびなす支援学校高等部3年生の保護者)
- ・パネルディスカッション～自立生活センターに期待すること～
登壇者／後郷さん、ツアイさん、金城さん、愛甲さん、今井さん
司会／植田さん(ヒューマンネットワーク熊本)
- ・質疑応答

◆まず、ぶるーむやイルカがどのように支援学校や生徒さんたちとどのようにかかわりを持っているかプレゼンして頂きました。

授業の中に組み込むのが難しい場合は、プライベートで関り、食事やカラオケ買い物に同行する等して繋がりを持ち続け「楽しいイメージ」を持ってもらうこと。

親御さんからは特別支援学校に在籍していても様々挑戦をしていくことで、可能性が広まっていくことの実践が紹介されました。

在籍中に宮崎のヤッドと関りができ、卒業後も自立を目指し通われる姿は今後の自立支援のモデルになっていくと思います。

また先生からは学校行事の組み立ての難しさや先生方の意識を変えていくことは、難しいが地道にすることが大切と貴重なご意見を伺いました。

九州ブロックではこれからもインクルーシブ教育の実現に向かい情報共有をし、取り組んで参ります。

2020年度 収支計算書

2020年 4月 1日から 2021年 3月 31日まで
 東京都八王子市明神町4-11-11-1F
 全国自立生活センター協議会
 代表者 平下 耕三


(単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 事業収入		2,584,078
2 会費収入		
CIL会員	3,014,800	
介助サービス会員	42,711,712	
賛助会員	10,000	45,736,512
3 助成金収入		
キリン福祉財団		1,222,219
4 雑収入		62,533
当期収入合計		49,605,342
II 支出の部		
1 一般管理費		
人件費	26,161,319	
研修・諸会費	203,500	
会場借上げ費	0	
旅費交通費	339,540	
通信費	629,455	
事務所等借上費	2,520,000	
水光熱費	277,685	
備品費	499,870	
消耗品費	496,435	
修繕費	9,900	
印刷費	2,084,640	
賃借料	183,264	
書籍仕入	0	
研修会開催事業	1,972,726	
地域ブロック体制整備事業	301,350	
新規リーダー育成事業	0	
海外ILセンター支援事業	1,000,000	
映画宣伝費	676,100	
雑費	69,060	37,424,844
当期支出合計		37,424,844
当期収支差額		12,180,498
前期繰越収支差額		70,978,685
次期繰越収支差額		83,159,183

上記決算は適正に行われたものと認めます。

令和3年4月23日

会計監査

素原京子 

2020年度 貸借対照表

2021年 3月 31日現在

全国自立生活センター協議会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	84,167,364		
前払費用	346,250		
流動資産合計		84,513,614	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			84,513,614
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	1,277,781		
預り金	76,650		
流動負債合計		1,354,431	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,354,431
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		70,978,685	
当期正味財産増減額		12,180,498	
正味財産合計			83,159,183
負債及び正味財産合計			84,513,614

2020年度 財産目録

2021年 3月 31日現在

全国自立生活センター協議会
(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	106,210	
郵便振替口座	65,436,044	
普通預金 多摩信用金庫	3,280,676	
普通預金 ジャパンネット銀行	15,344,434	
前払費用	346,250	
流動資産合計		84,513,614
2 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		<u>84,513,614</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
前受金	1,277,781	
預り金	76,650	
流動負債合計		1,354,431
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		<u>1,354,431</u>
正味財産		<u>83,159,183</u>

2020年度 JIL 常任委員会 ピア・カウンセリング委員会活動報告

□活動理念

コロナ禍の中でもピア・カウンセリングと自立生活プログラムをエンパワメントの柱として、私たちの声が届く社会の実現に向けて、全国各地の自立生活センターとともに、取り組んでいく。

□構成メンバー

委員長 井谷重人（中国・四国 CIL 星空）

副委員長 不在

和田英人（東北・北海道 自立生活センター青森）

大淵由理子（関東 自立生活センター・小平）

安原美佐子（関西 自立生活センターあるる）

高園康文（九州・沖縄 自立生活センターぶるーむ）

押切真人（九州・沖縄 自立支援センターおおいた）

□委員会事業

1) 定例会議 Skype or Zoom（月1回）

1. 04月23日(水) 13:00～

06月18日(木) 13:30～

07月20日(月) 13:30～

08月24日(月) 13:30～

09月29日(火) 13:30～

10月12日(月) 13:30～

12月04日(金) 10:00～

01月18日(月) 13:30～

02月22日(月) 13:30～

03月22日(月) 13:30～

2. 対面会議 なし

2) 講座・研修会

1. オンライン集中講座

開催日時：2020年7月3日、8日、17日

開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

参加者：約4名

コロナ禍で対面でのピアカンが実施できないため、オンラインでのピアカンの在り方について、メン

バーを集めて、ズームで集中講座を実施しました。対面とは違って、オンラインでのいろんな課題や発見があり、各地でもいろんな形のピアカンが始まっているので、広め隊にて情報交換していきたい。

2. ピアカン座談会

開催目的：コロナ禍でのピアカンに対する思い、講座開催の際のアイデアや意見を共有

開催日時：2020年7月31日（金）14:00-16:00

開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

参加者：約40名

コロナ禍の中、初めて「ピアカウンセリング座談会」を開催しました。前半は、報告（デモオンライン講座開催報告、感染対策を考えた対面講座開催報告）後半はグループワークを行い、センターの状況、ピアカンに対する思い、今後の活動について共有しました。

3. 知的ピアカンについての勉強会

開催目的：障害種別を超えてピアカンを浸透させていくため、まずは委員の勉強から

開催日時：2020年8月3日（月）13:00～14:30

開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

参加者：約4名（委員会メンバー）

協力してくださった方…妹尾美紀さん（生活介護「フレンズ」）

橋本さん（支援者・特定非営利活動法人ばあとなあ）

西尾元秀さん（障大連）

大友ともみさん（大阪の委員であった大友章三さんのパートナー）

センターによっては日頃身体の人としか関わっていない所もある。自分のセンターも頸損99%だが、今後は同じ身体障害でも筋ジストか ALS とかに関わっていききたいし、知的についても知っていきたく思っていた。コロナ禍で移動自粛になり動けなくなったが、これからも Zoom 等を使って継続して関係性を築いていきたい。（ピアカン委員：押切真人）

4. 知的ピアカンについての勉強会 第二弾

開催目的：障害種別を超えてピアカンを浸透させていくため、まずは委員の勉強から

開催日時：2020年12月18日（金）14:00～16:00

開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

参加者：約3名（委員会メンバー）

協力してくださった方…住田理恵（兵庫ピープルファースト）

中尾悦子（自立生活センターリングリング）

寺田さち子（自立生活センターリングリング）

長く知的障害者ピアカンを実施しているリングリングのピアカウンセラーと当事者を招いて、ズーム

で学習会を行った。これまでの経過を踏まえ、どのような形でピアカンを実践しているかなど、大変参考になる話を聞くことができ、今後の活動にいかしていきたい。講師の住田さんはピアカンニュースでも紹介している。

5. 全国セミナーどうなるピアカンの場！！

開催日時：2020年12月15日（火）13：00-15：00

開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

登壇者：内海千恵子（AJU 車いすセンター）

吉野裕子（町田ヒューマンネットワーク）

船橋裕晶（自立生活センターリング）

井谷重人、高橋愛実（自立生活センター星空）

押切真人（自立支援センターおおい）

コロナの影響で講座や研修会を延期せざるを得ないなかで、委員会ではピアカン座談会を7月に行い、全国のピアカウンセラーと意見交換を行いました。その後、各団体で工夫を凝らしてのピアカン講座も始まっていて、今回はそれらの取り組み報告と主催者とのディスカッションをとおして、これからのピアカンの在り方を探っていく企画です。動きたいけど動けないピアカウンセラーのためになればというコマでした。

3) 次世代リーダー育成プロジェクト [ピアカンネクストジェネレーション（ピアネク）]

ピアカン広め隊

ピアカンの普及・定着を図るために全国各地のピアカウンセラーとオンラインで交流・情報交換を行っています。現在、東北、中部、関西、九州沖縄で実施しています。できれば、定期的にブロックでの座談会を開催していきたいです。

（東北ブロック：8月20日 中部ブロック：10月29日 九州沖縄ブロック：9月10日

関西ブロック：9月4,14日 中四国ブロック：11月26日 関東ブロック：12月27日）

4) 相談・情報提供

1. ピアカンNEWS

6月・12月号発行

2. 相談対応

以上

介助サービス委員会活動報告(2021年4月常任委員会)

(1) 介助サービス委員会の活動指針

- ① 介助サービス委員会は主体性を発揮するとともに事業計画は自主性をもって実行する
- ② 介助サービス委員会は主体性・自主性を確保するために適切な組織構成を考える
- ③ 介助サービス委員会は持続可能な協議体づくりを目指し人材確保登用を意欲的に進める

(2) 2020年度の事業方針

- ・ 重度訪問介護の継承発展
- ・ 知的・精神障害者及び医療的ケアの必要な重度障害者の自立支援を加速
- ・ 本人主体・主権の介助制度に転換へ(障害者権利条約 19 条に基づく)

(3) 当期中の会議

日付	定例会議	時間
2020.04.15	スカイプ会議	21:30～23:30
2020.05.20	スカイプ会議	21:30～23:16
2020.06.17	スカイプ会議	21:30～23:25
2020.07.15	スカイプ会議	21:30～23:00
2020.08.19	スカイプ会議	21:30～23:20
2020.09.16	スカイプ会議	21:30～23:10
2020.10.21	スカイプ会議	21:30～23:25
2020.11.18	スカイプ会議	21:30～24:00
2020.12.23	スカイプ会議	21:30～23:15
2021.01.20	スカイプ会議	21:30～22:46
2021.02.17	スカイプ会議	21:30～23:27
2021.03.17	スカイプ会議	21:30～22:57

(2) 実施事業

- 予定していた研究のためのセンター訪問や委員会合宿は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定通りに実行することができなかった。
- 長時間介助サービスを利用する障害者の「生きづらさ」と介助関係に関する研究のアンケート協力（目白大学 金在根(キム・ジェグン)先生)
障害者対象アンケートの確認。今後、残りの二つのアンケート(介助者向け・CN 向け)を作成する。作成に関しては随時、介助サービス委員会と意見交換しながら進めていく。
- **新たに介助サービス委員会通信をメーリングリストにて年 4 回発行予定。**

【委員会合宿】

コロナ禍で未定。

【JIL 九州ブロック研修会】

開催予定日時:令和 3 年 2 月 23 日(火) 12:00～18:00 オンラインで開催

【全国セミナー】

日時:2020 年 12 月 14～16 日 Zoom にて開催

テーマ:『知的障害者の自立生活について』

知的障害者の自立支援および自立生活について、当事者の声を聞きながら考える。CIL との関わりや自立生活運動への関わり、自己決定支援のあり方について具体的事例に学びつつ、当事者主体の生活の実現について考える。

登壇者:地村貴士(自立支援センターぱあとなあ)、浅川都(自立生活センター・小平)

報告:

(3)メンバー名と所属団体名

○委員

ブロック	名前	所属
北海道・東北	崎野剛	自立生活センター青森
関東	浅川都	自立生活センター・小平
中国・四国	益本恵子	CIL下関
中国・四国	中村宏子	CIL松江
九州・沖縄	後郷法文(委員長)	自立生活センターぶるーむ
九州・沖縄	新垣正樹	北部自立生活センター希輝々

2020年度 人権委員会事業報告(案)

○委員構成

委員長 白杉 眞（自立生活センタースリーピース）・・・・・・・・ 関西ブロック
副委員長 大川 速巳（静岡障害者自立生活センター）・・・・・・・・ 中部ブロック
勝又 文博（自立生活センターさっぽろ）・・・・・・・・ 東北・北海道ブロック
斎藤 新吾（つくば自立生活センターほにゃら）・・・・・・・・ 関東ブロック
岡本 直樹（CIL ふちゅう）・・・・・・・・ 関東ブロック
河本 満幸（CIL 下関）・・・・・・・・ 中国・四国ブロック
日隈 辰彦（ヒューマンネットワーク熊本）・・・・・・・・ 九州・沖縄ブロック

○会議

スカイプ会議 2020年4月9日（木）20時～
スカイプ会議 2020年5月14日（木）20時～
スカイプ会議 2020年6月11日（木）20時～
スカイプ会議 2020年7月9日（木）20時～
スカイプ会議 2020年8月13日（木）20時～
スカイプ会議 2020年9月10日（木）20時～
ズーム会議 2020年9月26日（土）13時～
ズーム会議 2020年10月17日（土）14時～
スカイプ会議 2020年11月12日（木）20時～
スカイプ会議 2020年11月30日（月）10時30分～
スカイプ会議 2020年12月10日（木）20時～
スカイプ会議 2021年1月14日（木）20時～
スカイプ会議 2021年2月11日（木）20時～
スカイプ会議 2021年3月11日（木）20時～

○活動・取組み

- ・全国セミナー「虐待について学ぼう～障害者虐待防止法とその課題」
日時：2020年12月14日（月）午後3時～
形式：オンライン
パネラー：片桐公彦（厚生労働省障害保健福祉部 虐待防止専門官）
岡山祐美（日本自立生活センター）
日隈辰彦（ヒューマンネットワーク熊本）
コーディネーター：勝又文博（自立生活センターさっぽろ）

- 虐待防止ワークショップインストラクター養成研修
 日程：10月3日（土）午後2時～
 10月4日（日）～午後4時
 開催形式：オンライン（Zoom）
 インストラクター：人権委員会メンバー
 受講者：3名
- 虐待防止ワークショップのインストラクター派遣
 日時：2021年3月27日（土）
 主催：沖縄県名護市 北部自立生活センター希輝々
 形式：オンライン（Zoom）
 インストラクター：大川、勝又
- 京都 ALS 女性殺害事件に対する声明の原案作成（関係団体で共同表明）
 表明日：2020年7月30日（木）
 周知方法：JIL ホームページに掲載
- 「愛名やまゆり園」入所者の身体拘束（閉じ込め）に関する抗議文（JIL として抗議）
 表明日：2020年9月25日（金）
 周知方法：当該事業所および日本記者クラブへの FAX 送付
- 障害のある者の人権宣言の原案作成（JIL として表明）
 表明日：2020年12月14日（月）
 周知方法：全国セミナーで発表

○その他

- 人権に関する時事情報の情報発信など

○総括

- 人権委員会の先輩たちが形作ってきた「虐待防止ワークショップ」を委員会のメインツールとして、それを全国に広げていこうと普及活動を行ってきた。また、声明文や抗議文については、各プロジェクトと連携し、提案・原案作成などを行った。

2020年12月14日

障害のある者の人権宣言

全国自立生活センター協議会

代表 平下 耕三

人権とは、すべての人が生まれながらにもっている権利であり、人として生きるために普遍的なものである。これは国の最高法規である日本国憲法において、基本的人権の尊重として強調されている。しかし、私たちは「障害者」とひとくくりにされ、隔離・収容を強いられ、スティグマによるいわれなき差別や偏見にさらされてきた。私たち障害のある者は、人権が認められず、社会や地域から遠ざけられ、恥ずかしい存在として家族からも排除される歴史をたどってきた。無視や暴行、横領など、当たり前のように人権を侵害されてきた。

私たちの先輩たちはこうした厳しい状況に立ち向かい、障害のある者の命の尊厳を訴え、地域の中で共にある社会の実現を求めて、およそ半世紀にわたり権利を守る活動を繰り返してきた。それによって、まだ多くの課題はあるものの、障害のある者の地域生活は進み、一定程度の権利が認められるようになってきた。

しかし、障害のある者に対する人権侵害は未だ存在し、差別や虐待、ハラスメントなどが日常的に繰り返され、私たちは屈辱的な思いをし続けている。優生思想は社会の隅々に染み渡っており、障害のある者の権利は奪われ、その存在が否定され、生まれてくることすら認められていない。

障害者の権利に関する条約第3条には、「固有の尊厳、個人の自律（自ら選択する自由を含む）及び個人の自立の尊重」「社会への完全かつ効果的な参加及び包容」「差異の尊重並びに人間の多様性の一部及び人類の一員としての障害者の受入れ」と明記されており、他の者との完全な平等が強調されている。

私たち障害のある者の権利が、障害のある本人及びその家族、医療・福祉従事者のみならず、すべての人々に十分に理解され、保障されることこそ、すべての人間が安心して暮らせる社会を実現する上で必要不可欠であると確信し、私たちはその完全実現に向けて行動することを宣言する。

2020年9月25日

「愛名やまゆり園」入所者の身体拘束（閉じ込め）に関する抗議文

全国自立生活センター協議会

代表 平下 耕三

私たちは、どんな重度な障害があっても地域で当たり前のように生活し、障害のない人と同じ権利を持ち、地域の中で共にある社会の実現を目指して活動する障害当事者団体です。全国110ヶ所を越える障害当事者団体（自立生活センター）で構成しています。

今月9月2日、神奈川県による立ち入り調査が入ったとの報道を受け、「愛名やまゆり園」で行われた虐待の実態が明らかになりました。入所者にミトン型手袋をはめ、ドアの取っ手にはガムテープを貼り、自分で開けられない状態で居室内に閉じ込める等、これらの行為は、障害者虐待防止法や厚生労働省公表の「障害者福祉施設・事業所における障害者虐待の防止と対応の手引き」において虐待と定めています。手引きでは、「自分の意志で開けることのできない居室等に隔離する」「手指の機能を制限するミトン型手袋をつける」の行為は、身体拘束禁止の具体的な行為としています。また、一部報道では入所者を居室に長期間閉じ込めているとあり、障害者虐待防止法では、「正当な理由なく障害者の身体を拘束すること」は身体的虐待にあたりと定めています。やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならないとされていますが、今回の報道を見る限りそのような報告はありません。そもそも、身体拘束を行わないことが支援の原則であると考えます。先の「津久井やまゆり園」障害者無差別殺傷事件において改めて顕著になった社会にある優性思想、人に優劣をつける能力主義的な発想そのものだと思います。

「障害者の権利に関する条約」やそれに基づく国内法の整備によっていかなる条件のもとでも基本的人権が保障されていることが前提となっています。しかしながら保障されるとは言い難く、差別や偏見にさらされているのが現実です。今後、このような施設での対応がおこらないようにするためにも、施設内での職員研修の徹底などによる組織体質の改善を求めます。また、私たち全国自立生活センター協議会では、人権委員会を中心に障害の理解と虐待防止のため、障害のある当事者による虐待防止ワークショップを展開しております。職員研修を行う際は、当会の虐待防止ワークショップの導入を求めます。

以上

2020年度 政策委員会事業報告

1. 活動内容

1.1 ニュースレター発行

JIL 政策委員会では、各種障害者施策に関わる最新の情報を記載したニュースレターを作成し、全国の JIL 加盟団体へ配信している。このニュースレターの配信は毎月行われているため、時宜に応じた大切な情報を素早く共有することが可能となっている。緊急の場合には号外を発行するなどして迅速な情報の共有に努めている。そして各省庁の部会傍聴に何度も来られない地方の人々へも、詳細に情報を提供することができ、全国各地の人々が最新の情報を入手するのに一役買っている。

障害部会や社会保障審議会など各種会議が開かれるのは東京都である。このため都外に住む委員は議会傍聴のためにその都度上京をしている。そして得られた情報を基に、各種ニュースレターの執筆や報告を行っている。また政策委員会のメンバーには内閣府障害者政策委員会の役員や各地域での条例策定委員会委員も在籍しており、全国の自立生活センターより収集した意見を委員会へ直接伝え、制度政策に反映させている。

(※2020年度発行分のニュースレタータイトルは本報告書末尾にて)

1.2 情勢報告

年に二回開催される JIL 全国研修会において、障害者施策の最新の動向について、研修参加者に向けた報告を行っている。本報告は多くの人へ分かりやすく障害者施策情勢を伝える上で役に立っており、研修参加者からも受講満足度が高い。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、12月にオンライン会議システム ZOOM を用いて全国研修会が開催された。内容は以下の通り。(発表者:今村登(STEP えどがわ)/佐藤聡(DPI 日本会議))

(※例年は総会と併せて 6 月にも研修会が実施されるが、感染症拡大の観点から急遽オンラインのみの開催となり、総会のみ実施した)

・令和三年度障害福祉サービス報酬改定検討チームの動向(第 17 回議論(障害児入所施設、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援)、第 20 回議論(経営実態調査及び令和2年度障害福祉サービス等従事者処遇状況等調査の結果))、障害児入所施設に係る報酬・基準について、重度訪問介護は、運転中のヘルパー利用を算定するかが論点、行動援護、同行援護は、ヘルパーやサービス提供責任者の資格要件厳格化の経過措置延長が論点、通所・通学における同行援護の利用について、処遇改善加算率と財政審の資料、障害者虐待の防止、身体拘束等の適正化(虐待防止委員会の義務化)

・2020 年度バリアフリー法改正と最近の動き(バリアフリー法2020年改正、基本方針:次期バリアフリー整備目標、最近のバリアフリーの動き(新幹線(車いす席増設、予約・販売方法の改善、窓口待ち時間短縮)、小規模店舗のバリアフリー(出入口・店舗内段差解消、可動式椅子の導入、車いす利用可能なトイレ・試着室・ATM・セルフレジ・サッカー台・点字メニュー・筆談ボード・コミュニケーションボードの準備、)、障害者差別解消法の見直し)

1.3 ヒアリング対応

2020年度は以下のヒアリングに参加した。

- ・「障害福祉サービス等報酬改定に係るヒアリング」(7月21日)

参加者:岡本直樹(CILふちゅう)、山本広次郎(ヒューマンケア協会)

ヒアリングの意見とりまとめ資料は以下リンクを参照のこと。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000663217.pdf>

1.3 JIL 年鑑調査

加盟団体へ、利用者数やスタッフ数、サービス提供の状況やピアカウンセリング、自立生活プログラムの開催状況、そして団体の基礎情報を聞く年鑑調査を実施。82団体より回答を頂戴し(回答率:約70%)、全国各地の加盟団体における活動について総覧できる資料が完成した。

1.4 定例会議

毎月一度、オンラインによる会議を開催している。検討テーマごとに担当を分けて情報を収集・共有している。主な検討テーマは以下の通り。

- ・地域生活、権利擁護、バリアフリー、尊厳生、裁判、その他時事問題

今後の定例会議では各種検討事項に加えて役割に対応した学習会も行い、委員会全体の知識共有を増進していく。この上で、権利擁護団体でもあり、介助派遣事業所でもあるというユニークな立場をとる自立生活センターの連絡協議会であるという強みを存分に活かし、国・地域レベルでの政策に強い存在感を発揮し、障害の有無に関わらず誰をも取り残さない社会を創造するために今後も活動に邁進していく。

2. JIL 政策委員会メンバー(2019年度3月31日現在※50音順)

委員長:	今村 登	(自立生活センターSTEP えどがわ)東京都
副委員長:	佐藤 聡	(DPI 日本会議)東京都
委員:	加古 雄一	(自立生活センターアークスペクトラム)京都府
	笠原 賢二	(CIL こねくと)静岡県
	生井 祐介	(つくば自立生活センター・ほにゃら)茨城県
	岸本 慶子	(自立生活夢宙センター)大阪府
	藤原 勝也	(メインストリーム協会)兵庫県
	植田 洋平	(ヒューマンネットワーク熊本)熊本県
	山口 彩夏	(沖縄自立生活センター・イルカ)沖縄県
	山本 広次郎	(ヒューマンケア協会)東京都
オブザーバ:	見形 信子	(神経筋疾患ネットワーク)埼玉県

【参考】2020 年度発行ニュースレター項目

号数	発行日	内容
Vol.57	4 月 28 日	JIL コロナウイルス対策本部設立お知らせ、バリアフリー法改正内容、新型コロナウイルス感染症治療に係るトリアージの問題・集中治療を譲る意思表示カードの問題、トリアージ問題に対する WIN の声明文紹介
Vol.58	5 月 30 日	第 51 回内閣府障害者政策委員会報告、バリアフリー関係の動きまとめ(改正バリアフリー法、新幹線の WEB 予約、JR 山手線単独乗降可能への改善、付帯決議紹介、DPI 日本会議声明文紹介、地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案について、新型コロナウイルス感染症をめぐる世界情勢の紹介
Vol.59	6 月 30 日	第 52 回内閣府障害者政策委員会報告、バリアフリー関係の動きまとめ(電話リレーサービス開始、空港アクセスバスのバリアフリー化、バリアフリー法及び関連施策のあり方に関する検討会による 2021 年からのバリアフリー整備目標<鉄軌道、バス、タクシー、船舶、空港>、国連障害者権利条約日本の審査)、第二次補正予算による新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業の実施について
Vol.60	7 月 28 日	報酬改定検討チーム報告、差別解消法見直しのポイント解説、バス乗車時の車いす固定について意見募集、新幹線車いす用フリースペース実証実験参加報告、TIL・DPI 共催「命の選別に関する学習会」参加報告
Vol.61	8 月 31 日	新幹線のバリアフリー対策最終とりまとめ解説、日本武道館改修報告、京都 ALS 当事者囑託殺人事件について
Vol.62	9 月 29 日	つくば自立生活センターほにゃらの取り組み(つくば市議会一般質問の中で障害に関するものを冊子にまとまる)、道路空間 UD を考える懇談会、船形コロニー建替え抗議声明賛同人募集
Vol.63	10 月 30 日	報酬改定検討チーム報告、JR 九州無人化裁判、UD タクシー乗車運動呼びかけ、第 4 回移動等円滑化評価会議参加報告
Vol.64	11 月 26 日	報酬改定検討チーム動向解説、障害者雇用・福祉政策の連携強化に関する検討会(先行するさいたま市重度障害者の就労支援事業解説)、小規模店舗のバリアフリー化ガイドライン素案解説、国交省駅無人化問題検討会解説、旧優生保護法熊本地裁報告
Vol.65	12 月 28 日	第 53 回内閣府障害者政策委員会報告、報酬改定の基本的方向性解説、駅無人化検討会・意見交換会報告(障害当事者団体、鉄道事業者、国交省)、鉄道利用での事例募集(事前連絡を求められた、無人駅の利用を拒否された等)、生殖医療補助法案解説
Vol.66	1 月 28 日	差別解消法改正ロビー活動呼びかけ、内閣府障害者政策委員会第 5 期委員発表解説、報酬改定解説(ピアサポート事業)、旧優生保護法札幌地裁判決解説
Vol.67	2 月 25 日	バリアフリー施策の一層推進を求める要望書解説、令和 3 年度報酬改定内容解説、旧優生保護法札幌地裁判決解説、空港アクセスバスバリアフリー車両導入解説・移動円滑化基準適用除外自動車認定要領一部改正パブコメ募集、出生前診断・着床前診断に対する神経筋疾患ネットワークからのメッセージ
Vol.68	3 月 30 日	差別解消法改正解説・ロビー活動呼びかけ、第 3 回駅無人化検討会・意見交換会報告(障害当事者団体、鉄道事業者、国交省)、社会保障審議会報告、第 54 回内閣府障害者政策委員会報告、インクルーシブ教育を求める川崎就学裁判控訴審報告

2020 年度 研修啓発委員会事業報告

1. 活動内容

1.1 スカイプ会議

日付	検討事項
4月9日	新型コロナウイルス感染対策のため、6月のセミナーでZoomを導入することを確認、加盟団体の皆さんがスムーズに入れるための事前準備について
8月10日	12月に開催予定の全国セミナーのオンライン実施について、オンライン実施で想定される課題と対応について(分科会の実施、グループワークの情報保障、インターネット接続環境について)、2021年度6月総会・全国セミナーの開催形式について
10月21日	12月全国セミナーについて(公募枠の決定、カリキュラムの決定、提出資料の確認、研修の実施方法について)
10月27日	12月全国セミナーについて(研修スケジュール、講師側の注意事項、参加費について)
3月8日	12月全国セミナーについて良かった点と改善点、6月開催予定の総会・全国セミナーについて(各委員からカリキュラム希望確認、全体テーマ、総会・選挙の方法、公募の案内について)
3月23日	6月総会・全国セミナーについて(カリキュラムの決定、開催までのスケジュール確認、各講師への案内)

2. 実施事業

全国セミナー@オンライン (12月14-16日)

カリキュラム

日付	時間	内容(講師)
12月14日	13:30-14:30	ついに本格始動！インクルーシブ教育プロジェクト！(長田直也(CIL 小平)、植田洋平(ヒューマンネットワーク熊本))
	15:00-17:00	虐待について学ぼう～障害者虐待防止法とその課題(片桐公彦(厚生労働省虐待防止専門官)、岡山祐美(日本自立生活センター)、日隈辰彦(ヒューマンネットワーク熊本)、勝又文博(自立生活センターさっぽろ))
	17:30-18:30	わたしたちは地域を選んだ ～過去現在そして未来へ～(川崎良太(自立生活センターてくてく)、和田彩)

		起子(自立生活センター富士)、内山裕子(ヒューマンケア協会)、中野まこ(自立生活センター十彩)、伊藤弾(自立生活センター東大和)
12月15日	13:00-15:00	どうなるピアカン場!! (内海千恵子(AJU 車いすセンター)、井谷重人、高橋愛実(自立生活センター星空)、船橋裕晶(自立生活センターリング)、押切真人(自立支援センターおおいた))
	15:30-17:00	コロナ禍での聴覚障害者の取り組み (CIL 聴覚障害プロジェクトチームメンバー)
	17:30-18:30	情勢報告 バリアフリー法関連と報酬改定 (佐藤聡(DPI 日本会議)、今村登(自立生活センターSTEP えどがわ))
12月16日	13:00-14:00	離島や農村部における重度障害者の24時間重度訪問介護(自薦ヘルパー利用) (川崎良太(自立生活センターてくてく)、大野直之(全国障害者介護保障協議会)、里中利恵(日本 ALS 協会鹿児島県支部))
	14:30-16:30	神出病院(精神科)虐待事件の報告と精神障害者の地域移行の課題(精神プロジェクトメンバー、竹沢幸一(八王子精神障害者ピアサポートセンター)、陶延彰(自立生活夢宙センター)、高原里緒(北部自立生活センター希輝々)、船橋裕晶(自立生活センターリング))
	17:00-18:30	知的障害者の自立生活について(地村貴士(自立支援センター『ぱあとなあ』)、浅川都(自立生活センター小平))

3. 2020年度 研修啓発委員会メンバー (*50音順)

委員長	川崎良太	(自立生活センターてくてく (ユースパワーネット))
副委員長	植田洋平	(ヒューマンネットワーク熊本 (インクルーシブPT))
委員	井谷重人	(CIL 星空 (ピアカウンセリング委員会))
	今村登	(自立生活センターSTEP えどがわ (政策委員会))
	後郷法文	(自立生活センターぶるーむ (介助委員会))
	白杉真	(スリーピース (人権委員会))

2020年度 ユースパワーネット 事業報告(案)

2020年度はユースパワーネット新体制になって1年目の年でした。新型コロナウイルスの影響で直接会うことはできませんでしたが、オンラインを活用し全国各地で活動している人たちと「つながる」ことに重きを置きながら、自立生活運動の楽しさを伝えていくこと、若手当事者の育成に力を入れることができました。

1. 活動事業について

事業①若手発掘、運動のきっかけづくり

名称：ユースパワーネット新体制組織づくり

目的：2019年度より新体制に向けて各ブロックより「ニューフェイス」メンバーを募集してきた。今後も各ブロックと連携を取りながら、引き続きメンバーを募集していき、日本における若手自立生活運動家のゆるやかなネットワークを構築する。

内容：・ニューフェイスメンバーの募集(各ブロック)
・MLの作成(各ブロック)
・各ブロックにおけるユース企画の実施
・現メンバーから新メンバーへと役割の引き継ぎ 等

成果と課題：

- ・ブロックごとに企画を開催することで、近隣のセンターの若手当事者と知り合うきっかけになり、センター同士のつながりをつくることができた。
- ・ブロックによっては、最近自立生活運動に関わるようになったという若手当事者がいないという地域もあり、地域格差がある。

事業②自立生活運動の魅力を伝えていく活動

①じりつサロン～同じ悩みを共有しよう～

実施日：2021年2月19日(金) 13:30-15:30

会場：Zoom ミーティング

対象者：障害当事者・テーマについて話せる方

参加者数：13名+運営5名

担当者：三宅貴大・和田彩起子(企画・準備・運営)
中野まこ・宅野瑠美・伊藤弾(当日テーマ別進行)

目的：同じ悩みを抱えた人同士が集まるので、日頃思っていることが自然といえる時間となる。悩みを共有できると自分だけではない安心感が得られる。

内容：申し込み時に、自分が今話したいテーマを第3希望まで選択してもらい、テーマ別にグループ分けをしディスカッションを2回行った。

テーマは「介助者」「自立生活」「障害者運動」「仲間」「フリートーク」の5つ

成果と課題：

- ・障害種別もバラバラでインクルーシブ感満載で楽しかった。
- ・全国セミナー等は知的障害の方は参加しづらいところがあると思うから、ユースの企画は何でもありで気軽に参加できるようにしていきたい。
- ・もう少し対象者を狭めながら(自立して5年以内など)、今後も定期的に行っていきたい。(文責：和田)

②駆け込み寺～あなたのお悩み解決します！？～

実施日：2021年3月19日(金)

会場：Zoom ミーティング

対象者：若手当事者

参加者数：3名

担当者：川崎良太、宅野瑠美、山田誠

成果と課題：

自立生活運動をしていると、さまざまな場面で思い悩むことがあります。それは若手であればなおさらのこと。「これからの自分はどうなるだろう」「自分は役立てているのだろうか」社会を変えていくという大きな目的の中で自分の立ち位置が分からなくなり不安になる。代表や事務局長は忙しそうでなかなか話す時間もない。私自身も悩み苦しんだ時期がありました。そんな時、相談に乗ってくださったのは近くのセンターや全国の歳が近いスタッフの方々でした。今回はそんな場をせめてオンラインでも提供できればと思い実施しました。

参加者は3名の若手当事者。悩みを聞きながらも、皆さんすごくしっかりしている印象で、だからこそ悩んでしまうのかなとも感じました。つついアドバイスをしすぎてしまう箇所もありましたが、少しでもお話しされた3名が気持ちが整理され何かのきっかけになれば、幸いです。

今後もこのような企画や、機会が用意されていれば若手は安心して前に進めるのではないかと考えております。
(文責：川崎)

事業③JIL 全国セミナーでの報告

名称：わたしたちは地域を選んだ～過去現在そして未来へ～

実施日：2020年12月14日

会場：Zoom ミーティング

対象者：JIL 全国セミナー参加者

参加者数：約200名

登壇者：伊藤弾、内山裕子、川崎良太、中野まこ、和田彩起子

目的：自立生活の魅力や地域で暮らすことの素晴らしさを、次世代の障害当事者及び自立を考えている障害当事者に向けて発信する

内容：ユースパワーネットの部員同士で自立生活のきっかけや直面する問題、将来の目標などについてを対談する企画。伊藤・内山・中野の司会進行の元、川崎と和田が主として自立生活に関する経験談や価値観を1時間に渡り講談した。

成果と課題：

ユースパワーネットの部員たちの溢れる活力を視聴者へ届けることができ、自立生活運動の未来に希望を与えることができた。また、自立生活を準備している障害当事者に、地域に自立をすることの喜びを伝えることができた。

オンラインでの配信ということもあり、対談をしている者同士で話をしている様子を自然な形で見せることができなかったことが課題。誰が誰にむけて質問しているかなどを視聴者にわかりやすく知ってもらえるように、お互いの名前を呼び合うなどの工夫が必要となる。
(文責：伊藤)

2. 会議について

【Zoom 会議】

日時：4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、8月21日、9月11日、10月9日、11月13日、12月11日、1月8日、2月12日、3月12日の15時～16時

内容：各ブロックでの活動報告、企画検討・打ち合わせ、情報共有、相談等

【対面会議】

全国セミナー時に、所属する各センターのご協力のもと、セミナーへユースを派遣していただき実施していたが、全国セミナーがオンライン開催となったため対面会議は実施できなかった。

3. プロジェクトメンバーについて

代表：中野 まこ（自立生活センター十彩／愛知／中部ブロック★）

副代表：宅野 瑠美（CIL 下関／山口／中四国ブロック★）

会計：井上 黄五（ヒューマンケア協会／東京／関東ブロック★）

広報：山田 誠（自立生活センター北見／北海道／北海道・東北ブロック★）

川崎 良太（自立生活センターてくてく／鹿児島／九州・沖縄ブロック★）

ニューフェイス：伊藤 弾（CIL 東大和／東京／関東ブロック）

内山 裕子（ヒューマンケア協会／東京／関東ブロック）

三宅 貴大（あいえるの会／福島／北海道・東北ブロック）

和田 彩起子（自立生活センター富士／静岡／中部ブロック）

・担当ブロックの★は、各ブロックのリーダーを指します。

・ニューフェイスについては、引き続き募集していきます。

文責：中野まこ（自立生活センター十彩）

2020 年度 女性リーダープロジェクト事業報告（案）

女性リーダープロジェクトは、2018 年度から 3 年計画で展開してきた。今年は、最終年度となる予定だったが、コロナのために開催できなかった事業も多く、今年できなかった事業は次年度に持ち越すことになった。

2020 年度は、コロナの状況下でもオンラインに切り替えるなど工夫を重ねて、全国の女性たちが協力しながらリーダーシップをとって事業を行った。

■3 年間の総括

この 3 年間は、以下の目的をもって活動をしてきた。

- ・女性がリーダーシップをとり、JIL の中心的役割を担えるようになること
- ・女性が女性の抑圧について良く知り、解放のために活動できるようになること
- ・女性が競争し合う関係ではなく、協力し合える関係をつくっていくこと
- ・男性が女性への抑圧について正しい知識を得て、行動を起こすこと
- ・男女ともにお互いへの抑圧に取り組み、性差別のない JIL をつくること

JIL の内部ではほとんど問題意識のなかったところから始まったプロジェクトだったが、全国の女性リーダーに事業にかかわってもらうことや全国セミナーで男性にも女性にも知らせることなどを通じて、まずは「女性リーダーを増やしていく必要があること」を共有できるようになってきた。次はいよいよ新しい女性リーダーを増やしていく段階である。それには、まだまだ時間が必要である。女性プロジェクトは、スタートとしての第一期 3 年計画を終え、リーダーを交代したうえで、第二期へとつながっていく。

■プロジェクトメンバー

- 中尾悦子（自立生活センターリングリング）
- 見形信子（無所属）
- 秋山浩子（自立生活センター日野）
- 山本奈緒子（J I L 事務局）
- 藤原久美子（自立生活センター神戸 Be すけっと）
- 内村恵美（自立生活夢宙センター）
- 勝連文緒（自立生活センターイルカ）

■活動内容

○定例会議

月に1回の定例スカイプ会議を開催。

遠隔地に住む中心メンバーたちがしっかりつながりを作るという目的で、会議とは別に2か月に一度、ライフヒストリーや考えを共有する場も設けている。

さらに、女性プロジェクトのメンバーをリーダーとする「各事業ごとのチーム」をつくり、それぞれの事業を展開した。

○リーダー交代のためのサポートグループ

2020年5月から、毎月1回、リーダー交代サポートグループを行っている。

新しいリーダーのビジョン作りのため、新旧のリーダーふたりで、情報共有や意見交換をした。

○交流企画「女性（だと思ふ人）集合！！」

これまで、全国セミナーの昼休憩で行ってきた、障害の有無に関係なく「女性と思ふ人」のネットワーク作りのため交流会。

2020年度は、コロナの影響により対面での全国セミナーが行えなかったため、全国セミナーとは別にオンラインで開催した。

日時：2020年11月24日(火) 14:00~16:00

参加者：28名+プロジェクトメンバー7名

■さまざまな事業

①女性のためのエンパワメントWS

内村(夢宙)、高橋(岡崎ピアハウス)、内山(ヒューマンケア協会)、高橋(メインストリーム)

「女性のためのエンパワメントワークショップ基礎編<オンライン>」

日時 2021年2月 毎週金曜日 14:00~16:00

参加者 6名+担当者7名

目的 この社会で女性として生きる中で受ける抑圧や差別、生きづらさに女性自身が気付く。
女性のネットワークを作る。

内容

第一回：2021年2月5日(金) 14:00~16:00「気楽におしゃべり」

第二回：2021年2月12日(金) 14:00~16:00「安積遊歩さん講演会」

第三回：2021年2月19日(金) 14:00~16:00「世界の女性リーダーとつながろう」

第四回：2021年2月26日（金）14:00～16:00「振り返りとこれから」

- ◆新型コロナウイルスの影響で19年度に開催できなかった関東での「女性のためのエンパワメント・ワークショップ基礎編」をようやく行うことができた。久しぶりに実行委員のみんなとZoom越しに顔を合わせて準備のための話し合いをすることさえ嬉しかった。このような時期だからこそ仲間と繋がっていくことの必要性を痛感した。対面開催できなかったことはとても残念だが、オンラインだったからこそ参加できた人がいて、今までよりさらに多くの人に女性プロジェクトの活動を知ってもらうことができた。

②世界女性障害者リーダースカイプ会議

勝連（イルカ）・曾田（STEP えどがわ）・田中（STEP えどがわ）・イヴァンカ（留学生）

「世界の女性リーダーとつながろう！ 你好！台湾の女性リーダーのおはなし」

日時 2021年2月19日（金）14:00～16:00

目的 各国の女性障害者リーダーから女性障害者のエンパワメントのための活動、リーダー育成等の活動について情報を得るとともに、各国のリーダーとつながりを作る。

内容 前掲のエンパワメントWSと連携開催。

台湾の脳性まひの女性リーダーである周雪子氏、陳龍愛氏を招聘。インタビュー形式での講演、グループワークなどを行った。

台湾の状況を深く知ることはスタッフにとっても参加者にとっても貴重な機会になった。

③輝く女性障がい者リーダー表彰式

中尾（リングリング）・益本（CIL 下関）、吐合（てくてく）

オンライン企画「輝く女性障がい者大賞受賞者 夢の対談」

日時 2020年10月22日（木）14時～16時

参加者 47名

内容 以前の受賞者であるCILイルカの長位さん（2018年度大賞）とCIL松江の中村宏子さん（2019年度大賞）に登壇いただき、活動のこと人生のことなど多岐にわたって、お話を聞いた。

長く活動をしてこられたお二人の自立支援への熱い思いが伝わる内容で、失敗や弱みを堂々と話されたことも、さらに魅力を伝えることになったと思う。

若い人たちにも、勇気とやる気を与える良い機会となった。

④日本縦断駅伝企画「女性リーダーの手から手へ、巻物に書いていこう！&文集製作」

山本（JIL）・殿村（国立援助為センター）・松井（CIL 宇部）

全国 CIL の女性リーダーが、巻物にメッセージ（女性リーダーとして大切にしていること）を書き、たすきと共に手渡していく。

同時に、「障害者であり女性であること」をテーマにした作文を、巻物と一緒に次の人へ渡す。

3年かけて日本全国を巡り、巻物と文集を完成させる。交流の様子は Facebook でも中継している。

◆2018年10月17日にJILを出発し、22人の女性リーダーのもとへ渡った巻物は、今年度は下記の女性リーダーのもとへ届けられた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で一時止まってしまったが、タスキと巻物を郵送、交流をZOOMに切り替えて再開させた。

直接会い、交流するところに重きを置いていたが、オンラインでは場所や時間に囚われることなく開催ができる利点もあった。

2020年 6月16日 鈴木尚美・遠藤美貴子・渡部貞美（福祉のまちづくりの会）

7月10日 秋元恵子・宮下三起子（あいえるの会）

9月23日 佐藤順子・宮本知佳（CIL たすけっと）

11月19日 高橋愛実（CIL 星空）

12月 9日 内田瞳（自立生活夢宙センター）

2021年 2月26日 辻田奈々子（自立生活センターリアライズ）

3月29日 中野まこ（自立生活センター十彩）

⑤アンケート調査と分析

秋山（日野）・内山（ヒューマンケア）・鈴木（いろは）・中野（十彩）

「CILで働き続けるための取り組みについて」調査・分析

調査期間：2020年11月～2021年1月末

調査対象：JIL加盟団体

回答団体：51団体（2021年3月現在）

◆これまでのアンケート第1弾「CILにおけるジェンダーバランス」、第2弾「なぜ女性が少ないのか、それが女性の働きづらさにつながっているか」に続いての、第3弾アンケート。

女性が働き続けられる、女性当事者がリーダーシップを取りやすくなる、さらには性別の違いにかかわらず誰もが活躍できるCILを目指すためにどのような工夫があるのか、各センターでの取り組みを知るためにアンケート調査を行い、分析中。

⑥女性当事者リーダーのインタビュー映像化

見形（無所属）・川本（てごーす）・中村（CIL 松江）

CIL を引っ張ってきた女性リーダーを映像化して次世代へ残していく事業

◆コロナ禍のため、直接会って取材が困難になったので、zoom を使って取材。

11月-3月にかけて山口、福岡、東京の計6名の女性リーダーにインタビューを行った。

⑦マイノリティ女性リーダーとの交流会

藤原（Be すけっと）・蔡杼帆（イルカ）・岡山（JCIL）・石地（リングリング）※相談役

さまざまな分野で活動するマイノリティ女性リーダーとの交流を通して、サポートし合える関係を作る事業。

◆第2回を開催予定だったが、コロナ禍により延期。

2020 年度精神当事者プロジェクト報告

1-1 2020 年度実施事業

(1) 精神障害者リーダー育成・研修事業

精神障害者が働きやすい環境づくり、リーダー育成を目的に3年間の精神障害者PTの活動により構築された精神障害者同士のつながり、研修素材(冊子・DVD)を活用し、下記の研修事業を実施する。またこの活動を通して、JIL 精神プロジェクトのメンバーを増やしていきたい。

2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発令された。緊急事態宣言解除後も人の密着を避ける新しい生活様式が推奨されているなか、当事業の研修会は、ZOOM を使用しての開催、いわゆるオンライン型研修に切り替えた。オンライン型の研修は、職場・自宅での受講が可能となり、全国どこからでも参加ができるという点でメリットも感じられた。

①CIL 職員向け研修会(ZOOM を使用しての開催)→開催中止

目 的：精神障害者と付き合うにはどんな配慮が必要で、どんな雇い入れ方がいいのか、精神障
って何なのか。障害者リーダーたちの活動や働き方を通じて学んでいく。各地の CIL でロ
ールモデルとなる精神リーダーを増やす取り組み。

対 象：CIL 職員全員

日 程：2021 年 1 月 19 日(火)

内 容：リーダー4人の活動・サポート等の紹介 DVD 上映、精神障害者のスタッフをどう迎え入れ
るか、どんな配慮が必要か、リーダーそれぞれの経験の紹介、グループワーク等

講 師：船橋裕晶(CIL リングリング)、竹沢幸一(ヒューマンケア協会)、
陶延彰(自立生活夢宙センター)、高原里緒(北部自立生活センター希輝々)

②C I L で活動する精神当事者のワークショップ(ZOOM を使用しての開催)

* 新型コロナウイルス等の影響で延期となった 2020 年 3 月 17 日に予定していたサポートグルー
プを、仙台の全国セミナーの機会を利用して行う予定であった。セミナーが開催されなかつ
たため、ZOOM 形式でのサポートグループ開催を決定した。

目 的：各センターにおいて精神当事者が少ないため孤立しやすく、情報を得ること、同じ障害同
士で相談することができない。特に沖縄で精神障害の当事者として活動している仲間が他
都道府県に比べ比較的多くいるがなかなか県外の研修会に参加することが困難である。他
地域の当事者と情報共有や支え合いの場を作ることが重要である。一人一人がリーダース
hip を取れるような当事者のエンパワメントを目指す。

対 象：CIL で活動する精神障害者スタッフ

日 程：第 1 回 2020 年 5 月 19 日(火) 参加者 4 名

テーマ「日々の活動、やりたいこと、困っていること」

第 2 回 2020 年 8 月 7 日(火) 参加者 9 名

テーマ「精神医療・精神科病院について自分の体験から思うことや
経験を話してみよう」

第3回 2020年11月6日(金) 参加者9名

テーマ「神戸市要望書の報告・虐待について話す」

第4回 2021年3月11日(木) 参加者11名

テーマ「この1年の振り返り(どう過ごしてきたか? 情報交換)」

内 容：リーダーシップを取るといふこと、CILにおける精神のリーダーの役割、自分たちが困った時にどうサポートをもらいたいのか、活動で困っていること、など。

講 師：船橋裕晶(CIL リングリング)、竹沢幸一(ヒューマンケア協会)

陶延彰(自立生活夢宙センター)、高原里緒(北部自立生活センター希輝々)

秋山浩子(CIL 日野)

実施方法：ワークショップ形式

③精神科病院などでの精神障害者に対する虐待事件に対する権利擁護活動

2020年7月3日に、医療法人財団兵庫錦秀会 神出病院(兵庫県神戸市)で発生した虐待及び暴行等事件に対しての要望書を神戸市長に提出した。後日、神戸市役所より返答が届いているが到底納得いくものではなく今後も粘り強く交渉している。

2020年12月22日に、神戸市長に再度要望書を提出。返答期日までに回答が届き、一つ一つ丁寧に答えていることは評価。神戸市とはPTのメンバーの訪問、話し合いにより関係性を築きつつある。

④JIL 全国セミナー

テ ー マ：「神出病院(精神科)虐待事件の報告と精神障害者の地域移行の課題」

日 程：2020年12月16日(水)14:30-16:30

内 容：精神プロジェクトのコマをいただき、神出病院事件の経過、要望書の提出についてと精神PTの活動報告・神戸市との話し合いなどを報告した。後半は座談会として「精神障害者の自立生活」、グループワークとして「精神障害者が自立生活をするうえでの制度や問題点などについて」について行った。

神出病院の問題を知ってもらい、精神障害者の人権と、そしてJILの目標である自立生活をするために何か必要なのかを参加者と共有した。

今後、精神障害者の重度訪問介護並びに自立生活に関心を持っていただけるよう活発に活動を行っていきたい。

参 加 者：151名

講 師：船橋裕晶(CIL リングリング)、竹沢幸一(ヒューマンケア協会)

陶延彰(自立生活夢宙センター)

進 行：秋山浩子(CIL 日野)

⑤厚労省交渉

2021年2月8日に、PTのメンバーが全国大行動実行委員会の一員として厚労省交渉に参加した。

⑤2020年度に行った会議

日程	内容
4月7日	Skype 会議(ワークショップ、神出病院の事件について)
4月20日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院の事件について)
5月15日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院の事件について)
6月2日	ZOOM 会議(ワークショップ振り返り、神出病院要望書について)
6月8日	ZOOM 会議(神出病院要望書について)
6月18日	ZOOM 会議(神出病院要望書について)
7月15日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書について)
8月3日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書について)
8月19日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書について)
9月30日	ZOOM 会議(ワークショップ、JIL セミナー、神出病院要望書について)
10月12日	ZOOM 会議(ワークショップ、JIL セミナー、神出病院要望書について)
11月2日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書について)
11月16日	ZOOM 会議(ワークショップ、JIL セミナー、神出病院要望書について)
11月26日	ZOOM 会議(JIL 全国セミナーについて)
12月17日	ZOOM 会議(JIL セミナー、ワークショップ、神出病院要望書について)
1月13日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書について)
1月26日	ZOOM 会議(ワークショップ、麒麟福祉財団報告、厚労省要望書について)
2月5日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書他について)
3月2日	ZOOM 会議(JIL セミナー、ワークショップ、次年度の事業計画について)
3月31日	ZOOM 会議(ワークショップ、神出病院要望書他について)

国際PT活動報告
2021年4月JIL常任委員会、6月総会報告用資料

1. LEAD ON! TIMES発行

1 半期に一度発行。2020年度発行号数は4・5号。

◇ 第4号の内容

- ・ WIN「新型コロナウイルス下での生きる権利」声明（4月21日発行）
- ・ レジェンドインタビュー（韓国：パク・チャノさん）
- ・ 海外からの訪問者：スザンヌ・スーザン・キャシーを迎えて
- ・ 海外からの研修生：（ベトナム@自立生活センターリング）
- ・ 海外支援レポート：（南アフリカ：DPI日本会議 岡部夏実さん、ネパール：自立生活センター・イルカ ツァイ スファンさん）
- ・ ドキュメンタリー映画紹介：「ハンディキャップ キャンプ」奥平真砂子
- ・ ジュディ・ヒューマンの自伝を読んで：曾田夏記

◇ 第5号の内容

- ・ レジェンドインタビュー（中西由起子さん）
- ・ 海外からの研修生：ベトナム・ヒョウさん
- ・ JICANGO等提案型プログラム「自立生活を推進するための国際協カステップアップ研修」第1回オンライン事前研修会：モンゴル編（畠山あゆみ）
- ・ WINニュース「世界の障害者～コロナ禍に浮かび上がる『世界共通課題』～

2. WIN会議

1 2, 3か月に1回、日本時間夜23：00より、オンラインで世界のILネットワーク会議を実施継続。

- ・ 規約づくり、ウェビナー（ウェブ研修会）の検討
- ・ WINニュースレター発行の準備（記事集め）
- ・ 現在の参加国：6か国
（アメリカ、カナダ、ベルギー、パキスタン、コスタリカ、日本）
- ・ 2020年度会議実施日程： 5月11日、7月13日、10月19日、1月18日（計4回）

3. 海外訪問

2020年度海外訪問（アメリカ・NCIL会議、JICA・モンゴル）は延期。

4. JICANGO等提案型事業

JICA NGO等提案型プログラム

～自立生活を推進するための国際協カステップアップ研修 ～ JICAと契約
(2020年3月2日付)

(1) 参加団体(9団体)

YES, Deaf Can! (東京都・聴覚障害者の団体)、STEPえどがわ(東京都)、CILこねくと(静岡県)、ぱあとなあ(大阪府)、自立生活夢宙センター(大阪府)、メインストリーム協会(兵庫県)、CIL星空(愛媛県)、YAH!DOみやざき(宮崎県)、てくてく(鹿児島県)

(2) コロナ禍で1年延期

- ・ 2020年4月開始予定だったが、コロナ禍で1年延期。
- ・ 2021年も開始できるか?(未定)

(3) 事前研修会

- ・ 来年までの時間を利用して、オンラインで事前研修会を実施することにしました。
- ・ 第1回は10月23日にモンゴルのバヤールさんのセンター・ユニバーサルプログラムの皆さんのお話を聞いた。(報告参照: LEAD ON! Times第5号)
- ・ 第2回は1月22日(金)にカンボジアからサミスさんのセンター・PPCILのお話を聞いた。
- ・ 事前研修2回を終えて、参加団体対象にアンケートを実施。参加団体全てから回答を得て、おおむね【満足】の回答。今度どんなことを学びたいか? という質問については、「運営資金や会員の集め方を学びたい」とか、「もっと時間を取ってじっくり話をききたい」など、積極的な意見が寄せられた。

5. 国際PT合宿の実施→2020年度は見合わせ。

6. 映画「インディペンデントリビング」

- ・ 3月～オンライン配信を継続中。
- ・ 2020年1月～少しずつ劇場公開も戻りつつある。
- ・ キリン福祉財団助成金で、「英語字幕」付け。

2020年度 インクルーシブ教育プロジェクト 事業報告

1. 活動内容

1-1. 定例オンライン会議 (計8回)

内容：オンライン会議を実施し、各団体の取り組み報告や課題共有を行いました。

会議実施日

2020年5月26日(火)

2020年7月3日(金)

2020年9月29日(火)

2020年10月19日(月)

2020年11月20日(金)

2020年12月18日(金)

2021年1月26日(火)

2021年3月8日(月)

1-2. 全国セミナーでの研修(計1回)

①2020年12月14日(月)『ついに本格始動！インクルーシブ教育プロジェクト！』

内容：インクルーシブ教育とは何かを他の教育形態と比較して解説、インクルーシブ教育の現状の課題とインクルーシブ教育を実現するために各CILに取り組んで欲しいことをお伝えしました。コロナ禍で活動が難しい一方で、コロナだからこそ発展したオンライン講演会の取り組みや、バリアフリー法改正を機に学校のバリアフリー化の要望活動への協力を呼びかけました。

講師：植田洋平(ヒューマンネットワーク熊本)

長田直也 (CIL 小平)

成果：以下のような感想をいただきました。

- ・インクルーシブとインテグレーションを勘違いしていたのでとても勉強になりました。CILの活動の中でも福祉教育のときにインクルーシブ教育の啓発を取り込んでいけたらよいなと強く感じました。
- ・インクルーシブ教育の運動とバリアフリー法関連の運動が非常に密接に関わり合っていることにあらためて気づくことができ良かったです。

1-3. オンライン交流会

①2021年1月11日（月・祝）

出席団体：DPI 日本会議インクルーシブ教育部会 様

NPO 法人アクセプションズ 様

JIL インクルーシブ教育プロジェクト（JIEP）

※NPO 法人アクセプションズ…ダウン症がある子を持つ親の有志で立ち上げた団体

内容：各団体の代表から自己紹介をした後、交流会の趣旨説明、重度障害者の自立生活の実態として海老原宏美さんの自宅紹介、フリートークが行われました。

成果：皆さんから積極的な発言があり、質問に対してはその場で事例を紹介しながら共に考えたり、金銭管理や住宅賃借などの課題については今後も継続して考えていかなければならないという意識を共有することができました。

②2021年1月31日（日）

出席団体：全国障害協議会（学生団体） 様

JIL インクルーシブ教育プロジェクト（JIEP）

※全国障害協議会・・・特別支援学校の教員を目指す学生によって構成された団体

内容：各代表から挨拶をした後、海老原宏美さん、東佳実さんから自身の学校体験からインクルーシブ教育の大切さを伝えました。その後、小グループに分かれ、フリートークが行われました。

成果：参加した学生から「大学では学ぶことが出来ないことを学ぶことが出来た」という感想をいただきました。

1-4. オンライン研修

①JIEP オンライン合宿

2020年8月17日（月）、8月25日（火）、9月29日（火）、10月19日（月）

内容：PTの目標と行動計画を立てるために対面合宿を予定していたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、今年度はZoomで実施。メンバーそれぞれの「インクルーシブ教育への思い」を発表、プロジェクト内の担当決め、インクルーシブ教育推進行動計画、JIL 中期目標づくりを行なった。

※インクルーシブ教育推進行動計画については別紙を参照

成果：単に教育への思いを共有するだけでなく、講演力を高めるために、発表者と

参加者がお互いに、講演内容の良い点と改善点を伝え合い、スキルアップに繋げることができた。

②DPI 教育部会と J I L インクルーシブ教育 PT の内部研修会 2020 年 11 月 2 日(月)

内容：東京大学の小国喜弘先生より、なぜ特別支援教育席の子どもが増えるのか、教育史を交えてお話しいただいた。

成果：今後のインクルーシブ教育について、不登校児も何らかの困り感があることから、障害者団体だけでなく、不登校児支援や引きこもり支援の団体と繋がることを視野に入れてはどうかという提案をいただき、新たな観点から今後の運動について考えることが出来た。

1-5. インクルーシブ教育活動状況実態調査

内容：オンラインアンケートを実施し、全国の C I L のインクルーシブ教育推進活動への取り組みの有無や、今後取り組みたいと考えるか、取り組むうえで難しいこと等の実態把握を行なった。

成果：約 70 団体から回答をいただき、6 割程度ではあるが全国の C I L の活動状況を把握することが出来た。

2. 活動メンバー（敬称略・五十音順）

プロジェクトメンバー：東 佳実（自立生活センター・ナビ）

海老原 宏美（自立生活センター・東大和）

植田 洋平（ヒューマンネットワーク熊本）

長田 直也（CIL 小平）

鍛冶 克哉（メインストリーム協会）

長位 鈴子（沖縄県自立生活センターイルカ）

頼尊 恒信（CIL だんない） ※2020 年 12 月まで

常任委員：中野 まこ（自立生活センター十彩）

藤原 勝也（メインストリーム協会）

オブザーバー：数矢 雄（メインストリーム協会）

佐藤 祐（CIL ラピタ）

吉嶺 左恭（沖縄県自立生活センターイルカ）

インクルーシブ教育推進行動計画

基本理念

自立生活センターは地域で障害のある人が当たり前で生活することが出来るインクルーシブな社会の実現を目指している。インクルーシブな社会を実現するために、障害者権利条約の一般的意見4号に書かれた、インクルーシブ教育の実現を目指す。

現状

自立生活センター全体として介助保障やバリアフリーなどの運動は盛んに行われてきた。そのような中で、2014年に日本政府の障害者権利条約の批准や2016年に起きた津久井やまゆり園の障害者殺傷事件が起きた。加えて、現在日本は少子化であるのにも関わらず、特別支援学校や特別支援学級が増えていく現状がある。

変化

上記の状況の中で、2014年の障害者権利条約の批准を追い風に、全国120団体ほどある自立生活センターの中から、東京、兵庫、熊本、沖縄の団体がインクルーシブ教育の実現を目的にネットワークが結成された。ネットワークのメンバーは様々な教育環境で育っているし現在の教育の場にはいないが、フルインクルージョンの教育の実現を目指し障害当事者としての経験を基に私たちはやはり「インクルーシブ社会を作っていく為の活動」としてインクルーシブ教育の推進に取り組んでいきたいと思い活動している。そのネットワークでJIL全国セミナーや総会の場で、各地の活動報告や障害者権利条約におけるインクルーシブ教育の理念などを発表し、少しずつメンバーが集まってきた。そして、2020年にJILにおいて正式に「インクルーシブ教育プロジェクト」が発足し、コロナ禍であるが月1度のZOOM会議やリモート合宿を行うなど活動をスタートすることができている。

定義

活動の上では下記のように定義する（障害者権利条約第24項、一般的意見4号参考）

・インクルーシブ教育

インクルーシブ教育では、障害、人種、皮膚の色、性別、言語、言語的文化、宗教、政治的及びその他の意見、国籍、種族的出身、先住民であること、あるいは社会的出身、財産、家柄、年齢、その他の地位にかかわらず、多様性を尊重されなければならない。

単に全ての児童を通常学校に入学させるだけでなく、そこではニーズに応じた合理的な配慮が提供されなければならない。また、すべての生徒が、高く評価され、尊重され、受け入れられ、自分の意見に耳を傾けられていると感じなければならない。

・特別支援教育

個々のニーズに応じ、障害の特性に配慮した教育。提供されるいかなる支援措置も、インクルージョンの目標に従ったものでなければならない。よって、それらは障害のある生徒を捨て置くのではなく、彼らが教室内及び学外での活動に同級生とともに参加する機会を強化することを目的としなければならない。

・分離教育

障害のある生徒の教育が、特定の機能障害やさまざまな機能障害に対応するために設計され、あるいは使用される別の環境で、障害のない生徒から切り離されて行われる教育。特別支援学校、特別支援学級はこれに該当し、インクルーシブ教育と分離教育は相容れない。

課題

1. 特別支援学校への入学者が年々増加している
 - 1-1: 地域の学校がバリアフリーでないことを理由に特別支援学校しか選ぶことができない
 - 1-2: 地域の学校を希望していても、行政、学校、親戚および地域住民の無理解によって、特別支援学校しか選ぶことができない
 - 1-3: 障害があることで、いじめや虐待の対象となることが多い
 - 1-4: 高校進学から障害のある児童はさらに特別支援学校を選ばざるを得なくなる
 - 1-5: 障害のある児童の就学先が原則地域の学校になっていない

2. 障害を克服するという医学モデルの教育が続いている
 - 2-1: 教育の目的が障害の克服とされているため、同世代の者との関わりから学ぶことが軽視される。
 - 2-2: 過剰な努力を求められ通常学級では合理的配慮が十分に提供されない
 - 2-3: 子どもたちの中にも障害の医学モデルが浸透している

3. 障害のある生徒を想定していない人員配置によって、特定の者に過剰な負担を求められる
 - 3-1: 通常学校への入学に、保護者の同行を条件とされる
 - 3-2: 大規模クラスにおけるインクルーシブ教育の実現は教職員1人だと困難な場合がある

4. 特別支援教育のあり方を決める場に、障害当事者が不足している

インクルーシブ教育プロジェクト行動計画

1. 全国のCILに対し、インクルーシブ社会の実現にはインクルーシブ教育の実現が欠かせないということを伝え、各地でインクルーシブ教育推進活動を行ってもらうように呼びかける
2. 各地のCILの相談窓口となり、バックアップを行う
3. 取り組みの中で見えてくる地域格差、差別事例、好事例を集め、他団体と連携し、政策提言に繋げる。

インクルーシブ教育実現に向けて各CILの目標にして欲しいこと

1. 就学時、またそれ以降の相談窓口となる
2. 全ての小中学校のバリアフリー化
3. 教育現場での社会モデルの浸透
4. 社会全体でのインクルーシブ社会、インクルーシブ教育の考え方の浸透

目標達成のために全国のCILに取り組んで欲しいこと

1. 本人と保護者との繋がりを作る
 - ↳ 就学の相談会や、講演会を行い、地域の学校に通うという選択肢を増やす

2. 学校の環境を整える
 - ↳ バリアフリー法改正を機に、小中学校のバリアフリー化計画の策定を求め、計画策定の場に障害者の参画を求める。

3. 学校に社会モデルの考え方を浸透させる

- └ 啓発活動を通して教員や生徒に障害の社会モデルを伝える
- └ 受験、入学、修学時等の合理的配慮に関連した相談に対応する

4. 一般の方にインクルーシブ社会、インクルーシブ教育について正しく理解してもらう

- └ 講演会や研修会で啓発を行う

2020年度 JIL 脱施設プロジェクト(準備会) 事業報告

1. 準備会設置の位置づけ

常任委員会でのプロジェクト化の承認を受け、準備会を設置し、以下の点について検討し、プロジェクト化への流れを作っていく。

- (ア) 準備会を設置し、目的・方針を定める
- (イ) 関係団体との連携の取り方について整理する
- (ウ) コアメンバーを集め、招集する

2. プロジェクトについて

(ア) 現状

長い運動の結果、地域生活のための法制度が整備され、全国で1日24時間以上の介助時間が保障されている。しかし、知的、精神、重心、医療的ケアを必要とする難病等の多くの障害者が未だに施設や病院での生活を強いられている。また本来施設から地域生活への移行を目指して整備されたはずの相談支援、地域移行支援や地域定着支援があるにもかかわらず脱施設化あるいは施設閉鎖は一向に進んでいない。

脱施設化に関して諸外国では法制度を整備し、それに基づき国や自治体が財政的な支援を行い脱施設化が推進されている。支援を行った団体だけでなく自立生活を目指す個人に対しても財政的なバックアップがなされている(アメリカ、韓国)。それと比べると日本では脱施設化や閉鎖を目的とした政策づくりが不十分である。

現在、障害者の福祉制度の体系は地域支援と施設支援の二本立てとなっている。スウェーデンもかつては日本と同様二本立てであったが、法律により地域支援一本化となった。施設支援もあるという状態が続いている限り、必要な人もいいるという考えが生じるので脱施設化は進まないと言える。障害者の制度を地域生活に限定したものに変え、そのうえで必要な予算を割り出し、脱施設化を進めていく制度が不可欠である。また、障害者が地域で暮らすには国や自治体からの財政出動が増加するので、誰も取り残されない社会を実現するため必要であると市民に納得してもらえよう理解を広める活動も必要である。

(イ) 活動目的

- ① 筋ジス病棟をはじめとして入所施設の閉鎖を目指す。
- ② 権利条約19条の完全履行を求める。
- ③ DPIの10年計画に合わせて具体的な計画目標をミッションや中長期計画に盛り込む。
- ④ CILのネットワークを活用した自立生活サポート。
- ⑤ 脱施設のサービス化の検討。受け皿として介助派遣と並ぶ自立生活センターの事業とする。制度化。
- ⑥ 全入所者に対する自立生活意向調査や脱施設化に向けた法制度づくり、もしくは既存の法制度の改正を国に対して提言。プロジェクトを中心にしてJIL内でアメリカやスウェーデンの法律を参考に「地域生活権利法案」(仮称)を作成する。
- ⑦ DPIをはじめとする障害団体、JILの各種委員会やプロジェクトと連帯してSDGsが目指す誰も取り残されない社会の実現に向けて組織力を使い障害者が隔離して扱われていることが「正しくないこと」であると社会に周知するキャンペーンを行う。

3. 会議

(ア) 事務局会議

- ① 第1回打ち合わせ(10月21日)
目的の共有、コアメンバーの人選等、常任委員会でML報告(10月31日)
- ② 第2回打ち合わせ(11月2日)
方向性の共有、常任委員会で反応がないことに対する対応。コアメンバーの声掛けの進捗状況
山本氏に連絡、事務局連携会議で検討(11月11日)、今村氏より回答(11月20日)
- ③ 第3回打ち合わせ(1月07日)
構成員について(女性ネットから4名推薦・合意)、外部団体との連携、全体会の開催意向確認
- ④ 第4回打ち合わせ(3月18日)
プロジェクト承認準備
- ⑤ 第5回打ち合わせ(4月05日)
全国セミナーの企画について打ち合わせ

(イ) コア会議

- ① 2月01日(月)15:00~17:00
- ② 4月14日(水)11:00~12:00 *毎月第2水曜日 11:00-12:00で決定

(ウ) 交流会

- ① 3月01日(月)14:00~15:30
参加メンバーの思いの共有

4. プロジェクトメンバー

JIL 脱施設プロジェクトでは、JIL 加盟団体からの参加者をコアメンバーとし、その他のメンバーをオブザーバーとして位置付けています。

(ア) コアメンバー(9名)

- ・ 藤原 勝也(メインストリーム協会/政策委員会)
- ・ 河本 満幸(CIL 下関/人権委員会)
- ・ 岡本 直樹(CIL ふちゅう/人権委員会)
- ・ 船橋 裕晶(リングリング/精神 PT)
- ・ 大藪 光俊(JCIL/筋ジス PT)
- ・ 李 幸宏(町田ヒューマンネットワーク)
- ・ 安原美佐子(自立生活センター・あるる/ピアカン委員会)
- ・ 竹川 友恵(メインストリーム協会/筋ジス PT)
- ・ 岡山 祐美(JCIL/筋ジス PT)

(イ) オブザーバー(5名)

- ・ 加藤 与一(自立生活センターくらすべ Akita)
- ・ 山口 和俊(CIL ころろ)
- ・ 小林 勝(CIL びんご)
- ・ 井出今日我(CIL 上田 Groping)
- ・ 内田 由佳(自立生活センターとくしま)

2021 年度 4 月常任委員会用報告資料「新型コロナウイルス対策本部」

1. 設立趣旨（部分抜粋）

- 1 ……情報の冷静な分析と共有をすることを目的に、JIL 事務局内に対策本部を設立し、専用ホームページを作成し情報を提供する。

2. 活動内容

- 1 要望書の作成・提出
 - ・ 内閣総理大臣宛「新型コロナウイルス対策における障害のある者への人権保障に関する要望」（2020 年 4 月 11 日）＜関係団体連名＞
 - ・ 厚生労働省宛「介助の必要な障害者・児が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の対策に関する要望」（2020 年 5 月 11 日）＜関係団体連名＞
- 2 メディアとの連携
 - ・ 新聞各社、共同通信社、民放、NHK、ラジオ局への要望書公開・連絡
- 3 情報収集・提供
 - ・ 基礎的な情報（基礎知識、日常的な注意事項、濃厚接触の定義）
 - ・ 関係省庁からの通知等の紹介、HP リンクの紹介（人工呼吸器の確保・増産、事業所向け）
 - ・ 対応策（利用者・介助者に感染者が出た場合、自宅隔離、簡易陰圧室・陽圧ヘルメット）
 - ・ 資料（簡易フェイスシールド作成、防護服の作成・着脱、団体においてコロナウイルス陽性反応が出た場合の対応具体例（2 例））
- 4 問い合わせ窓口の設置
- 5 感染症対策に関する知識や技術の向上のための研修受講と得られた情報の発信
 - ・ 公益財団法人風に立つライオン基金の委託により、国際医療 NGO Japan Heart が実施する感染症対策に対する防御技術・知識向上研修である「ふんわりチャンポン大作戦」を受講。この研修から得られた情報について加盟団体へ向けて発信。
 - ・ 2020 年度は以下の加盟団体が研修を受講。
STEP えどがわ、CIL 日野、町田ヒューマンネットワーク（東京都）、AJU 自立の家（愛知県）、自立生活夢宙センター（大阪府）

3. メンバー（※50音順敬称略）

本部長： 平下耕三（自立生活夢宙センター）
副本部長： 今村登（STEP えどがわ）
 中西正司（ヒューマンケア協会）
事務局長： 山本奈緒子（JIL）
監修： 佐々木淳（医療法人社団悠翔会）
委員： 秋山浩子（CIL 日野）
 井谷重人（CIL 星空）
 市川博美（STEP えどがわ）
 大野直之（全国障害者介護保障協議会）
 川口有美子（NPO 法人さくら会）
 山本広次郎（ヒューマンケア協会）

2021年度 JIL 事業計画（案）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の動向や影響を考慮した上で、ほぼ全ての事業の開催形態・方法の工夫（オンライン会議等）をしながら、事業を進めていく。

1. 委員会活動の推進

- (1) 常任委員会
- (2) ピアカウンセリング委員会
- (3) 介助サービス委員会
- (4) 人権委員会
- (5) 研修啓発委員会
- (6) 政策委員会

2. プロジェクトチームの推進

- (1) ユースパワーネット
- (2) 女性リーダープロジェクト
- (3) 精神当事者プロジェクト
- (4) 国際協力プロジェクト
- (5) インクルーシブ教育プロジェクト

※緊急組織：JIL 新型コロナウイルス対策本部

3. 「第30回全国自立生活センター協議員総会」開催

(1) 協議員総会

日時：2021年6月23日（水）15：00～17：00

開催方法：オンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン形式

内容：2020年度事業報告・決算報告、2021年度事業計画・予算決議

4. 人材養成

(1) 全国セミナーの開催（全2回）

[年間テーマ]

J I L 30周年 みんな集まれ！過去・現在・未来

[目的]

組織体制整備に伴い、研修会の企画立案も新たな人員構成で協議を行う。地域的問題とCILの活動課題を組み入れた研修内容を企画・実施することで、加盟団体それぞれがさらに力をつけ、より強固な組織となるよう各委員会が

協力・連携し開催を進める。地域ブロック会議も継続して行いさらなる連帯を図る。

[内容]

自立生活運動の理念・歴史・継承、精神・知的障害者支援、人権について介護派遣について当事者の役割・健常者の役割、等

[日程]

第1回

日程：2021年6月21日（月）～23日（水）

開催方法：オンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン形式

第2回

日程：未定

開催方法：オンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン形式

（2） JIL 運営研修の開催

昨年度はコロナウイルスの影響により開催を中止した JIL 運営研修について、今年度は以下の内容で開催を予定。

実施時期は未定、開催方法についてはオンライン会議ツールであるZOOMを利用したオンライン形式での開催。

[内容]

事業所を運営する上で、指定基準要件や日頃から作成しておく書類を熟知し、実地指導に代表・事務局長が対応できるようなるために、以下の内容で研修会を実施。

◎全体の概要

◎実地指導で求められるもの

◎実地指導の事例

◎自立生活センターの理念に基づいた運営のあり方

（3） 新規リーダー育成事業

JIL に加盟する CIL の当事者職員のうち特に、精神、知的、難病、医療ケアが必要な障害者等当事者スタッフ、また今後 CIL の設立を目指す個人に対して、JIL 主催の1泊2日以上研修会への参加費助成を行い、研修会への参加機会を保障・支援し、参加者の意欲向上へと繋げていく。

*対象経費：旅費交通費、介助料、宿泊費、研修参加にかかる費用。

5. キリン福祉財団助成事業

公益財団法人キリン福祉財団様より JIL に対して総額 250 万円のご助成をいただいた。障害の種別、多様性を超えた自立生活拡大に向けた取り組みとして、下記のとおり活動助成事業を予定している。

NO	助成事業名	助成額
1	自立生活運動の「価値」を伝える普及啓発事業	¥800,000
2	女性リーダープロジェクト事業	¥1,400,000
3	精神障害者支援プロジェクト	¥300,000

6. 地域ブロック活動推進事業

当会の長年の課題であった全国を 6 ブロックに分けた地域ブロック活動がようやく定着しつつある。今後も団体相互の交流と主体的な活動を推進することを目的に地域ブロック活動推進事業を実施する。事業計画は、ブロックごとに協議し実施する。

[事業内容]

- ・ブロック研修会（課題別・サービス別研修会・交流等）
- ・センター訪問・・・等

7. 障害者の地域生活の確立を求める全国大行動

今年度も引き続き障大連、DPI など多くの団体の協力を得ながら全国大行動の事務局をつとめる。HP・ML・FAX を活用した情報提供、各種資料作成、アンケート調査、マスコミ対応、等の事務局業務を行う。

8. 海外 IL センター支援海外研修事業

- ① 国際 PT チームの継続した活動、計画、実施（5ヶ年計画、助成金申請など）
ー 毎月の定例会議、合宿。
- ② 世界の IL ネットワーク（WIN）の活動をリードする。各国の途上国支援・協力を推進する活動・イベントを計画する。

9. 障害者の差別と虐待防止に関する事業

JIL の顧問弁護士、菅原弁護士（頸椎損傷）と協力して自立生活センターが困っている課題について、弁護士を使つての抗議・交渉が必要と思われる案件と、我々当事者団体による交渉で解決できる問題とを仕分けし、権利擁護活動を積極的に展開していく。

10. 情報提供

(1) JIL 会員用 ML (メーリングリスト) の運営

加盟団体やそのスタッフ、また全国で CIL 設立を目指し活動を行なっている個人に対して福祉関連の最新情報を提供する。また団体・個人間において、情報交換が促進され、加盟団体間の情報共有、ネットワーク化を目的とし、きめ細やかなサポートを行っていく。

(2) ホームページ

わかりやすい目次 (コンテンツ) および文章、見やすいレイアウトなど、内容の見直しを行うと同時に、バリアフリーなウェブサイトづくりを目指す。また、次々と変化していく制度の解説、虐待やニュースへの声明文を掲載するなど、内容の充実に努める。

(3) JIL 新型コロナウイルス対策本部

情報の冷静な分析と共有をすることを目的に、JIL 事務局内に対策本部を設立し、専用ホームページを作成し情報を提供する。

11. 30 周年記念事業

2021 年、JIL は加盟団体・助成団体の皆様に支えられ、30 周年の節目を迎えます。当事者運動・自立生活運動を先鋭的に展開し、加盟団体数は 116 団体になりました。これもひとえに当事者リーダーたちをはじめとする関係各位の皆様の御支援・御協力の賜であると考えられる。

JIL は 30 年間、地域社会や国内はもとより世界で活躍できる人材を育ててきた。ここまで積み上げてきた当事者運動・IL 運動の歴史は大事な財産であり、多方面にアピールする実績である。今までの歴史を築いてくれたリーダーへの感謝と未来へと進むリーダーの展望になるイベント・成果物の作成を検討中。

2021年度 JIL 北海道・東北ブロック活動計画書案

北海道・東北ブロック

1. ブロック会議構成

- ・ 対象となる団体は、現在 13 団体。内 11 団体が JIL 加盟。
- ・ ブロックのスカイプ会議にレギュラーで参加をしている団体は、10 団体。
- ・ 幹事事務局は、4 団体。

<構成団体>

- ・ 自立生活センター・さっぽろ (JIL 加盟、会議レギュラー、勝又氏)
- ・ 自立生活センター北見 (JIL 加盟、会議レギュラー、渡部氏)
- ・ CIL ラピタ (JIL 加盟、会議レギュラー、佐藤祐氏)
- ・ 自立生活センターPing あおもり (JIL 加盟、会議レギュラー、佐藤広氏・白戸氏)
- ・ 自立生活センター青森 (JIL 加盟、会議レギュラー、和田氏)
- ・ CIL もりおか (JIL 加盟、会議レギュラー、川畑氏)
- ・ 自立生活センターほっとらいふ (JIL 加盟、会議レギュラー、梅津氏・鈴木氏)
- ・ NPO IL センター福島 (JIL 加盟)
- ・ 福祉のまちづくりの会 (JIL 加盟、会議レギュラー、遠藤氏)
- ・ あいえるの会 (JIL 加盟、会議レギュラー、橋本氏)
- ・ NPO いわき自立生活センター (JIL 加盟)
- ・ NPO 法人アイアンドユウ (JIL 非加盟)
- ・ 自立生活センターくらすべ Akita (JIL 非加盟、会議レギュラー、鷲谷氏)

2. ブロック会議 (定例)

(1) 日時

毎月 1 回 第 2 火曜日 13:30～約 2 時間

(2) 開催方法

スカイプ (JIL 事務局がホスト)

(3) 司会進行

団体持ち回り

(4) 内容

- ① 事業計画
- ② 各センター活動・近況報告
- ③ 相談 (困っていることや他センターに聞きたいこと等)

<会議実施予定>

- ・ 2021年04月13日(火)
- ・ 2021年05月11日(火)
- ・ 2021年06月15日(火)
- ・ 2021年07月13日(火)
- ・ 2021年08月10日(火)
- ・ 2021年09月14日(火)
- ・ 2021年10月12日(火)
- ・ 2021年11月09日(火)
- ・ 2021年12月14日(火)
- ・ 2021年01月11日(火)
- ・ 2021年02月15日(火)
- ・ 2021年03月15日(火)

3. その他

- ・ 若手交流会の実施
- ・ JIL 総会・セミナーが対面の場合、交流会の実施

2021年度関東ブロック活動計画（案）

ここ数年、TIL との共同企画は行ってきたが、関東ブロック全体での活動があまり活発にできていない。今年度はブロック活動が活発に行えるよう、企画や運営に関わってくれる人や団体を再度募り、ユースを中心に活動できるように取り組みたい。

ユースのブロックでの活動は昨年度に引き続き、交流を中心に活動を行っていく予定。

- 交流会参加者を中心に ML を作成する
⇒ イベント情報の発信や情報交換、交流を目的
- 関東ブロックユース活動実行委員を増やす
⇒ JIL ユースプロジェクトの委員を中心に関東ブロックのイベントの企画・運営を担っていく人材発掘を行う

2021 年度 中部ブロック事業計画（案）

1. ブロック会議の実施について

①対面会議

例年6月や12月のセミナー時に対面会議を行なっているが、対面でのセミナーの開催が難しい状況である。対面で開催される場合は、多くのセンターが出席しやすい日を調整し実施する。

②Zoom 会議について

必要に応じて会議を設定する。

2. ブロック研修について

2021年度は新しく立ち上がったセンターを中心としてブロック研修を行いたいと考えている。開催については新型コロナウイルスによる情勢を注視しながら進めていく。

開催日：未定 テーマ：未定

3. ユースの活動について

中部ブロック圏内の自立生活センターで活動し始めて数年の人や、スタッフとして活動しているわけではないが、自立生活や自立生活運動に興味を持っている人たちをつなげ、悩みの共有や自身のスキルアップを目的に、2021年度も定期的に活動を進めていく。あわせて、JIL ユース PT のニューフェイスとしても活動できるように、企画・運営に携わる中心メンバーを募っていく。

【担当】中野まこ（自立生活センター十彩・愛知）

和田彩起子（自立生活センター富士・静岡）

【事業①初心者向けゆるりかふえ】

気軽に参加してもらえるようなトークテーマを設定し、ざっくばらんに聞き合える場を提供する。

4月9日（金）テーマ「部屋の片づけ方について」

6月11日（金）テーマ「みんなが思う一人暮らしって？」

8月20日（金）テーマ「公共交通機関を利用するときの困りごと」

【事業②活動している人向け学習会】

中部ブロックを中心に、全国の自立生活センターから協力をいただきながら、これからの活動につながるような学習会を企画する。

5月14日（金）自分史

7月9日（金）中部ブロックのセンター紹介①

9月10日（金）中部ブロックのセンター紹介②

文責：自立生活センター十彩 中野

関西ブロック事業計画

メインストリーム協会
藤原勝也

オンライン学習会

第一回 上半期 日時未定

内容（予定）障害者差別解消法改正

第二回 下半期 日時未定

内容（予定）意思決定支援等

中国・四国ブロック活動計画 2021 年度

1) キャッチフレーズのもとに繋がりを強化していく

■ 中四国ブロックキャッチフレーズ:「一生を煌めかせろ！ここで繋がる中四国ブロック」

■ パワーアップ委員会ビジョン:「日本一愛されるブロックにする」

2) 組織

■ 構成団体

<中国地方>

鳥取県 障害者生活支援センターすてっぷ

島根県 CIL 松江

岡山県 岡山自立生活応援センター

広島県 CIL おのみち

広島県 障害者サポートセンターtogether 広島

広島県 NPO 障害者生活支援センター・てごーす

広島県 CIL びんご(未加盟)

広島県 CIL ふくやま(未加盟)

山口県 CIL 下関

山口県 CIL 宇部

<四国地方>

香川県 自立生活センター高松

徳島県 自立生活センターとくしま(未加盟)

高知県 CIL アライズ (未加盟)未定

高知県 土佐の太平洋高気圧(未加盟)

愛媛県 CIL 星空

愛媛県 自立生活センター松山

愛媛県 障がい者生活支援センターぐっどらいふ(未加盟)

■ パワーアップ委員会

“中四国を愛されるブロックにしていく”ための若手を中心としたグループ(2019年4月発足)

<メンバー構成>

・NPO 障害者生活支援センター・てごーす 畑 俊彦

・CIL 下関 宅野 瑠美

・自立生活センター松山 加藤 陽子

・CIL 星空 宇高竜二・三ツ井 真平

- ・自立生活センター徳島 内田 由佳
- ・CIL 星空 井谷 重人(見守り)

3) 定例会議

- 中国と四国でそれぞれ地域別にリモート会議 (3ヶ月に1回)
- パワーアップ委員会リモート会議 (3ヶ月に1回)
- 全体 Skype 報告・リモート会議 (3ヶ月に1回)

4) 企画・イベント

- ピアカンセプション会

「Zoom で繋がる」をテーマに開催していく。

リーダー：障害者サポートセンターtogether 広島 梅坂・CIL 星空 井谷

以上

九州ブロック 2021 年度計画

1. 会議

九州ブロックでは定例会議を月 1 回開催し、各団体からの情報共有や研修会の打ち合わせ等を実施しております。

○毎月第3木曜 14:00～15:00

2. 研修会

九州ブロックでは年 1 回会場は持ち回りで全体の研修会を行っております。2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンライン(ZOOM)での開催になりましたが、積極的な情報交換や意見交換ができました。今年度はオンライン開催も視野に入れつつ、状況を見て判断していきます。

○開催地、日時等未定となっております。

3. 構成団体

九州ブロックは JIL 未加盟団体も含め下記15団体が所属しております。

- ・自立生活センターぶるーむ
- ・自立生活センターぐっどらいふ大分
- ・自立生活センター・ちくご
- ・自立生活センター・エコー
- ・障害者自立応援センターYAH! DOみやざき
- ・自立支援センターおおいた
- ・自立生活センターてくてく
- ・ヒューマンネットワーク熊本
- ・自立生活センターまんた
- ・沖縄県自立生活センター・イルカ
- ・自立生活センター南十字星
- ・北部自立生活センター希輝々
- ・CIL 都城ハッピー
- ・ながさき自立生活センターこころ
- ・北九州自立生活センター

2021年度 収支予算書

2021年 4月 1日から 2022年 3月 31日まで

東京都八王子市明神町4-11-11-1F

全国自立生活センター協議会

代表者 平下 耕三

(単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 事業収入		2,000,000
2 会費収入		
CIL会員	2,600,000	
介助サービス会員	35,000,000	37,600,000
3 助成金収入		
キリン福祉財団		2,500,000
4 雑収入		10,000
当期収入合計		42,110,000
II 支出の部		
1 一般管理費		
人件費	28,500,000	
研修・諸会費	280,000	
会場借上げ費	600,000	
旅費交通費	1,000,000	
通信費	550,000	
事務所等借上費	2,520,000	
水光熱費	330,000	
備品費	360,000	
消耗品費	450,000	
印刷費	2,000,000	
賃借料	200,000	
書籍仕入	100,000	
研修会開催事業	2,500,000	
地域ブロック体制整備事業	500,000	
新規リーダー育成事業	400,000	
映像製作事業/映画宣伝費	350,000	
海外研修事業/海外ILセンター支援事業	0	
雑費	100,000	
修繕費	0	
30周年事業	1,000,000	41,740,000
当期支出合計		41,740,000
当期収支差額		370,000
前期繰越収支差額		83,159,183
次期繰越収支差額		83,529,183

2021年度 ピア・カウンセリング委員会事業計画

□活動理念

ピア・カウンセリングと自立生活プログラムをエンパワメントの柱として、私たちの声が届く社会の実現に向けて、全国各地の自立生活センターとともに、取り組んでいく。

□構成メンバー

- 委員長 井谷重人（中国・四国 CIL 星空）
和田英人（東北・北海道 自立生活センター青森）
大淵由理子（関東 自立生活センター・小平）
安原美佐子（関西 自立生活センターあるる）
高園康文（九州・沖縄 自立生活センターぶるーむ）
押切真人（九州・沖縄 自立支援センターおおいた）

□委員会事業

1) 会議

1. 定例会議 Zoom 会議（月 1 回）
2. 対面会議（コロナの状況を鑑みて）

2) 講座・研修会

1. 6月の全国セミナーで、ピアカウンセラー達が元気になれる企画を行います。
2. ピアカウンセラーを目指す人や、ピアカンリーダーとしての向上を図りたい人のための講座を行います。必要に応じて、工夫しながら研修会も行っていきます。他にも、知的障害者のピアカンも積極的に進めていきます。

3) 次世代リーダー育成プロジェクト [ピアカンネクストジェネレーション（ピアネク）]

次世代のピアカウンセラーを発掘する取り組みを行っています。将来、ピア・カウンセリング委員会に入りたい人、リーダーを目指している人、ピアカンが好きな人等に声を掛け、その人たちで繋がることや学びの場をサポートします。

ピアカン広め隊…ピアカンの普及・定着を図るために全国各地のピアカウンセラーとオンラインで交流・情報交換を行っています。定期的にブロックでの座談会の開催を目指します。

4) 相談・情報提供

1. ピアカンNEWS 年3回発行 JIL メーリングリストにて配信
2. オンラインでの講座開催や事例をまとめ、ガイドライン、もしくは事例集の作成
3. 相談対応

以上

2021 年度事業計画

介助サービス委員会

1 介助サービス委員会の定義・目的・役割
介助サービス委員会とは、自立生活センターにおける介助派遣事業の事業課題を集約し、障害福祉の制度改革にともなう情報提供及び周知を目的とした、自立生活センター協議会(JIL 以下同じ)に属する委員会のことを言う。

2 介助サービス委員会の活動指針

- ①介助サービス委員会は主体性を発揮するとともに事業計画は自主性をもって実行する
- ②介助サービス委員会は主体性・自主性を確保するために適切な組織構成を考える
- ③介助サービス委員会は持続可能な協議体づくりを目指し人材確保登用を意欲的に進める

3 2021 年度の事業方針

- ・ 重度訪問介護の継承発展
- ・ 知的・精神障害者及び医療的ケアの必要な重度障害者の自立支援を加速
- ・ 本人主体・主権の介助制度に転換へ（障害者権利条約 19 条に基づく）

4 当期中の会議および事業スケジュール

- ・ 次ページを参照されたい

5 委員会の組織と人事

- ・ 2001 年 2 月 26 日、委員長の後郷法文氏が不慮の事故で亡くなり、委員長不在の体制にある。

○ブロック	○名前	○所属団体
北海道・東北ブロック	崎野 剛	自立生活センター青森
関東ブロック	浅川 都	自立生活センター・小平
中四国ブロック	益本恵子	CIL 下関
中四国ブロック	中村宏子	CIL 松江
九州・沖縄ブロック	新垣正樹	北部自立生活センター希輝々

2021 年度事業計画および年間スケジュール

事業		目的										
(委員会向け)強化合宿①		<ul style="list-style-type: none"> ・所属団体のサポート体制構築 ・主体性を発揮した事業展開 ・継続継承を目指す委員会活動 										
定例会議②		<ul style="list-style-type: none"> ・所属団体の運営状況の共有 ・障害福祉の制度情報を共有 ・事業計画の作成実行点検および事業経費の運用 										
ブロック向けタウンミーティング③		<ul style="list-style-type: none"> ・介助者不足を考えるワークを各地で実施 ・ブロック周辺地域の介助派遣事情の把握 ・加盟団体との交流を図る 										
全国セミナー向け研修会④		<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック向けタウンミーティングの報告 ・(交流を図った)特質したサービス、運営を行う加盟団体の紹介 										
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
①		合宿										
②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③	北海道・東北ブロック・関東ブロック・関西ブロック・東海ブロック・中四国ブロック・九州沖縄ブロック(予定)											
④							報告					

担当役割

担当役割の解説	主にやることは？	年間スケジュールとの関係では？
資料編さん	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 会議録作成 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 定例会議の実施 ▪ JIL 年次報告書、年次計画書の作成
事務編成	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 年間スケジュールの調整 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ タウンミーティング候補先の選定、会場宿泊手配、現地 CIL との各種調整など
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 各ブロック担当委員と連携しての次期委員会メンバーを募る 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ タウンミーティングへの帯同

2021 年度 人権委員会事業計画（案）

○委員構成

- 委員長 白杉 眞（自立生活センタースリーピース）・・・・・・・・・・ 関西ブロック
副委員長 大川 速巳（静岡障害者自立生活センター）・・・・・・・・・・ 中部ブロック
勝又 文博（自立生活センターさっぽろ）・・・・・・・・・・ 東北・北海道ブロック
岡本 直樹（CIL ふちゅう）・・・・・・・・・・ 関東ブロック
河本 満幸（CIL 下関）・・・・・・・・・・ 中国・四国ブロック

○会議

- スカイプ会議 毎月第 2 木曜 20 時から 1 時間 30 分程度
その他、必要に応じてスカイプ会議および対面会議を開催する。

○講座・研修

- ・全国セミナーでのコマ担当（年 1 回予定）
 - ・虐待防止ワークショップインストラクター養成研修（年 1 回予定）
 - ・虐待防止ワークショップのインストラクター派遣（随時）
- *派遣依頼は JIL 事務局または各人権委員までお申し付けください。

○活動・取組み

- ・虐待防止ワークショップ冊子の内容のリニューアル作業
- ・虐待事案発生時の対応で地元 CIL との連携・バックアップ、情報発信
- ・障害者虐待防止に関する働きかけ（各委員会・プロジェクトと連携）

○今後の活動の方向性

人権委員会の先輩たちが形作ってきた虐待防止ワークショップを各 CIL 単位で開催できるよう広めていく。そのために年一回、インストラクター養成研修を開催することでインストラクターができる障害当事者を増やしていく。

そして、将来的には各ブロックごとに人権担当者を複数人おき、各ブロックで起こった虐待事案に人権委員会と連携して対応できるような体制を作っていきたい。

2021 年度事業計画 JIL 政策委員会

昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症（以下：新コロ）による社会情勢の変化の内容やタイミングに、かなり影響を受けられると思われるが、JIL 政策委員会としては、引き続き DPI 日本会議（以下：DPI）、「障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動」（以下：大行動）と連動した、各種の法改正に向けた調査、準備、働きかけ及び情勢提供が中心となる。

障害者差別解消法改正案が国会に上程され、法案審議が始まる。今国会での成立と速やかな施行を求めて働きかけと情報共有とを行う。国連障害者権利委員会による日本の審査（建設的対話）は、新コロの影響で時期が来年度以降にずれ込むと思われていたが、今年の夏（8月～9月）に行われる予定に上がったとの情報もある。実施されれば、審査後に権利委員会から日本政府に出される勧告を活用し、差別解消法のみならず、先送りされている障害者基本法と虐待防止法の改正も、障害者権利条約との整合性の取れる内容となるよう、DPI と連携した働きかけが重要になる。

また、総合支援法においては、三年後見直しの議論が始まるため、団体ヒアリング等の対応等を通じて得られた最新情報を加盟団体に共有していく。これら議論に対応し、的確な情報を提出していくことが出来るよう必要な調査を行い、分析結果から課題を抽出し、政策提言に活用する。またこの流れに呼応し、JIL では加盟団体での状況を把握するために、昨年度調査を行った JIL 年鑑の分析・発行を行う。これら調査で得られた情報や課題は、各種の要望や加盟団体間での情報共有・連携の活発化に役立てる。

バリアフリー法関係では、このほど動きのあった法改正や新幹線バリアフリー化の動きや駅無人化の問題を注視し、審議や協議の内容を加盟団体に対してわかりやすく伝えると共に、TOKYO2020 オリパラの成果を法制度に反映しレガシー化させられるように取り組む。そして各地での活動にも繋がるよう、その都度必要とされる情報を提供していく。

引き続き国の審議会や検討会、非公開プロジェクト等の動向を常にウォッチしていく。その他、各地の条例、尊厳死法制化の動き、相模原障害者殺傷事件のその後なども注視して追いかけて、加盟団体に情報提供し、各ブロック研修等での講義を担えるよう講師育成にも取り組む。また JIL の他委員会との連携も充実させていく。

委員構成で空白となっている「北海道・東北ブロック」、「中四国ブロック」からの委員、女性の委員の勧誘にも取り組む。

今秋までに確実に行われる衆議院選挙の動向にも注視していく。

<主な活動事項>

1. 傍聴活動
 - ・ 社保審、政策委員会、主管課長会議など重要な会議の傍聴
2. ニュースレターの発行
 - ・ 情勢報告
 - ・ 毎月発行

3. 総会・全国セミナーで情勢報告

- ・ 報告者、交代でやっていく。また、委員以外の方にも協力をお願いすることもある。

4. ブロック研修、出前講座（講師派遣）

- ・ ブロック単位もしくは個別のセンター単位での研修や勉強会で、要望に応じて講師を派遣する。
- ・ 情勢や課題を伝え、加盟団体等の関心を高める。

5. JIL 年鑑の作成

- ・ 各センターの活動内容（概要、提供事業、スタッフ数、内訳、法人格の有無など）
- ・ 介助派遣事業の内容把握（サービス区分、利用者数、派遣時間数、介助者数、計画相談数など）

6. 会議

（1）定例会議

- ・ 毎月 ZOOM 会議

（2）合宿（会議&研修）

- ・ 年に1回、対面会議をする。

<メンバー>

委員長	今村 登	（自立生活センターSTEP えどがわ）東京都
副委員長	佐藤 聡	（DPI 日本会議）東京都
委員	加古 雄一	（自立生活センターアークスペクトラム）京都府
	笠原 賢二	（CIL こねくと）静岡県
	生井 祐介	（つくば自立生活センター・ほにやら）茨城県
	岸本 慶子	（自立生活夢宙センター）大阪府
	藤原 勝也	（メインストリーム協会）兵庫県
	植田 洋平	（ヒューマンネットワーク熊本）熊本県
	山口 彩夏	（沖縄自立生活センター・イルカ）沖縄県
オブザーバ	見形 信子	（神経筋疾患ネットワーク）埼玉県
事務局	山本 広次郎	（ヒューマンケア協会）東京都
	富川 功喬	（JIL）東京都

2021 年度 研修啓発委員会 事業計画

【研修啓発委員会とは】

1. 各委員会の委員長が集まって定期的に会議を行います。
2. JIL 全国セミナーのプログラムを考えることを、本旨としており実施後のアンケート結果や会員の意見を聞きながら改善に努めています。
 - (1) 当期中の会議について
 - ・定期的な会議はオンラインにて行います。
 - (2) 当面する実施事業について
 - ・新型コロナウイルスの影響により、6月の総会・全国セミナー及び12月に実施している全国セミナーはオンラインにて開催を予定しています。
 - (3) 来年度以降の総会及び、セミナーの開催場所について
 - ・前年度から各地に分散し、その時々々の時勢に合った場所でセミナーを開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまではオンラインを中心に開催を検討しています。
 - (4) 委員会メンバーについて
 - 研修啓発委員会のメンバーは各委員会、プロジェクトから委員長または選任されたメンバーが決定した後に構成されます。

2021 年度 ユース PT 事業計画（案）

若手ならではの視点で、自立生活運動の楽しさを伝えていくことや、若手当事者の育成に力を入れていきます。そしてこんなときだからこそ、全国各地の人たちとの「つながり」を大切に活動をしていきます。

1. 活動事業について

事業①若手発掘、運動のきっかけ作り

名称：ユース&ニューフェイス体制組織作り

目的：2020 年度より新たにニューフェイスメンバーを迎え新体制で活動をしてきた。

今後も各ブロックと連携を取りながら、引き続きメンバー募集を行い、若手自立生活運動家のネットワークを構築する。並びにユース PT 体制組織の強化を図る。

内容：・ニューフェイスメンバーの募集。

・各ブロック内での若手グループ内での活動等。

事業②内部研修

名称：ユース PT をパワーアップさせるための研修会

目的：メンバーのスキルアップ強化

内容：・同世代、活動年数が同じ者同士のつながり作り。

・知的・精神障害の当事者、支援者の話を聴き障害についての理解を深める。

・SNS 等を活用して、情報共有、相談を行う。

事業③全国各地の人たちとのオンライン交流会

名称：未定

目的：誰でも気軽に参加でき、全国各地の人たちとの「つながり」を作る企画の提供

内容：・zoom 等を活用して、全国各地の人たちとの交流会。

事業④JIL セミナーでの報告

名称：未定

目的：メンバーのスキルアップ強化

内容：・社会情勢等を考慮し、メンバーの若手当事者の興味がありそうな事を取り上げる。

・自立生活運動の楽しさを伝え、若手当事者の発掘につなげる。

2. 会議について

【定例 zoom 会議】

日時：毎月第2金曜日 15:00～16:00。難しい場合は適宜調整する。

内容：全国セミナー・ユース PT 企画の検討、各ブロックでの活動報告、情報共有、相談等。

【対面会議】

日時：コロナ禍で見通しが立たないが、全国セミナー時に行う。

内容：所属する各センターのご協力のもと、セミナーへメンバーを派遣していただき実施。

3. プロジェクトメンバーについて

2021年4月より、以下のメンバーで活動を行っていきます。

代表：宅野 瑠美（CIL 下関／山口／中四国ブロック★）

山田 誠（自立生活センター北見／北海道／北海道・東北ブロック★）

伊藤 弾（CIL東大和／東京／関東ブロック★）

内山 裕子（ヒューマンケア協会／東京／関東ブロック）

三宅 貴大（あいえるの会／福島／北海道・東北ブロック）

和田 彩起子（自立生活センター富士／静岡／中部ブロック★）

- ・担当ブロックの★は、各ブロックのリーダーを指します。
- ・ニューフェイスについては、引き続き募集していきます。

文責：宅野 瑠美（CIL 下関）

2021 年度 女性リーダープロジェクト事業計画(案)

◆プロジェクト会議の開催

スカイプ会議での会議を定時開催する。毎月1回 木曜 14:00~16:00

◆2021 年度事業

事業	2021 年度（4 年目）
全国セミナー「女性プロジェクトのこま」	年 2 回
女性(だと思ふ人)の交流会	年 1 回 時期未定
女性のエンパワメントワークショップ	年 1 回 時期未定
世界女性障害者リーダースカイプ会議	WS と同時
日本縦断駅伝企画 「女性リーダーの手から手へ巻物に書いていこう！」 &文集製作	継続・文集完成予定
輝く女性リーダーを表彰式	6 月全国セミナー
アンケート調査と分析	報告書作成 報告会(オンライン) 夏期開催予定
女性当事者リーダーのインタビューを映像化	撮影・編集・DVD 化
マイノリティ女性リーダーとの交流会	時期未定
女性障害当事者のメーリングリスト作成	年度内中
知的障害者企画	時期未定

◆プロジェクトリーダー交代

2021 年度からリーダーを中尾悦子から内村恵美に交代。

2020 年度~2021 年度中頃(予定)まで、毎月1回、1 時間半のリーダー交代サポートの時間を継続して行う。

◆来年度(2022年度)メンバー交代に向けて(準備期間)

今年度に今までの女性プロジェクト企画参加者や事業に興味がある方から新メンバーを募集し、来年度にメンバー交代を行う。

そのための準備期間として、交流会とメーリングリスト作成事業を担いつつ、定例会議と別に2ヵ月に1回行っていたライフストーリーの時間を現メンバーと新メンバーが共に「女性としての差別や偏見」や「協力し合う関係性」、「誰もがリーダーシップをとれることについて」など学ぶ時間や交流する時間に変更し行う。

◆プロジェクトメンバー

内村恵美（自立生活夢宙センター）

中尾悦子（自立生活センターリングリング）

見形信子（GILくにたち援助為センター）

秋山浩子（自立生活センター日野）

山本奈緒子（JIL事務局）

藤原久美子（自立生活センター神戸Beすけっと）

勝連文緒（自立生活センターイルカ）

★内山裕子（ヒューマンケア協会、新メンバー）

★中野まこ（自立生活センター十彩、新メンバー）

2021年度精神当事者プロジェクト事業計画（案）

1-1 2021年度実施事業

2021年度は定期的なZOOM会議やメーリングリスト・対面会議で様々な議論を重ね、CIL職員向け、精神障害者リーダー育成の研修会の2事業を行っていききたい。

研修会開催については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、自立生活運動に関わる全ての皆様の安全を優先に以下の行動を実施していく。

(1) 精神障害者リーダー育成・研修事業

精神障害者が働きやすい環境づくり、リーダーの育成を目的に精神障害者PTの活動により構築された精神障害者同士のつながり、研修素材（冊子・精神当事者のQ&A冊子）を活用し、下記の研修事業を実施する。またこの活動を通して、JIL精神プロジェクトのメンバーを増やしていきたい。

①精神障害者リーダー育成研修事業

開催地：沖縄県（沖縄は活動する精神障害者の数が多いが、離島のため交通手段のハードルが高く、研修会に参加しにくい現状があり情報共有や他地域との支え合いがしにくい。全国セミナーに参加できる人は限られている。沖縄で開催することで他地域を含め当事者同士の相談できるネットワーク作りを構築し、集まった当事者のエンパワメントを図りたい。）

目的：各センターにおいて精神当事者が少なく、繋がりが作りづらいため孤立しやすく、情報を得ることや困っていることを同じ障害同士で相談することができない。特に沖縄など離島では著しく困難であり、他地域の当事者と情報共有や支え合いの場を作ることが重要である。一人一人がリーダーシップを取れるような当事者のエンパワメントを目指す。

対象：CILで活動する精神障害者スタッフ

内容：リーダーシップを取るということ、CILにおける精神のリーダーの役割、自分たちが困った時にどうサポートをもらいたいのか、活動で困っていること、など。

講師：船橋裕晶（CILリングリング）、竹沢幸一（ヒューマンケア協会）

陶延彰（自立生活夢宙センター）、高原里緒（北部自立生活センター希輝々）

秋山浩子（CIL日野）

実施方法：ワークショップ形式で1回実施する。

②CIL職員向け研修会

希望開催地：①中国・四国 ②九州・沖縄 ③北海道・東北

目的：CILが精神障害者をメンバーとして迎え入れ一緒に働くとき、どんな配慮が必要でどうやって一緒に働いていいのか分からず、関わっても長続きしなかったり、十分なサポートをすることができずに、周りがどうしたらいいか困ってしまうことがある。全国的にロールモデルとなる人が少なく、プロジェクトで作成した事例紹介、Q&Aを参考に、精神プロジェクトのメンバーが付き合い方や配慮の仕方など体験を

通して伝える。

対 象：CIL 職員全員

内 容：精神障害者のスタッフをどう迎え入れるか、どんな配慮が必要か、など。

講 師：船橋裕晶（CIL リングリング）、竹沢幸一（ヒューマンケア協会）

陶延彰（自立生活夢宙センター）、高原里緒（北部自立生活センター希輝々）

実施方法：ブロック別研修を1～2箇所で開催する。

③精神科病院などでの精神障害者に対する虐待事件に対する権利擁護活動

昨年度に引き続き、精神障害者の人権と、J I Lの目標である自立生活をするために何か必要なかを加盟団体と共有ししながら活動を進めていきたい。

施設や地域で暮らす障害者の日常に潜む差別と虐待を防止し、かつ救済するためには、地域における当事者運動が極めて重要である。

虐待を受けた障害当事者の問題解決やその後の自立した生活を当事者の立場で支援して行くという観点から取り組んでいきたい。

精神・知的・難病等、J I L加盟団体の枠を超えて、当事者団体同士の連携も模索していきたい。

国際 PT
2021 年度事業計画

2021 年 4 月常任委員会に提出
2021 年 6 月 JIL 総会資料

- ① NGO 提案型事業 →延期へ。2022 年へ延期？これから JICA と協議相談。
 - ・ 4 月合宿（メインストリーム協会）、7 月合宿（夢宙センター）、9 月後半（モンゴル訪問）、11 月（まとめ）。（※日程詳細：募集要項参照）
 - ・ 合宿時の研修内容に講義として「障害と開発」を入れる。
 - ・ 12 月セミナーで報告。
 - ・ オンライン事前研修の継続
 - 台湾、パキスタン、ネパール、パキスタン？（メインストリーム協会と調整）

- ② 障害と開発学習会
 - ・ ジュディ氏の経験を学ぶ勉強会
 - ・ 勉強会シリーズ

- ③ WIN 世界役員会議
 - ・ WIN ニュースレターの発行（予定：前期）
 - ・ WIN ウェブサイトの立ち上げ
 - ・ ウェビナー
 - 基調講演：ジュディ・ヒューマン

- ④ LEAD ON! TIMES 発行
 - ・ 二回発行（6 月、12 月）
 - ・ レジェンドインタビュー（継続）

- ⑤ 全国の団結と継承～障害者運動家の軌跡を紡ぐ～
 - ・ 全国各地の運動家を訪ねてインタビュー
 - ・ 「知られざる戦士」を訪ねて
 - ・ 「あの人に会いたい」「ききたい」シリーズ
 - ・ 47 都道府県の運動家の軌跡
 - ・ 既に亡くなられた方の話も聞きに行く

- ⑥ ADA30 周年記念 →中止。2021 年度へ延期。→2022 年？
 - ・ ちゅうぶ、夢宙チーム、ぱあとなあチーム、星空チーム

- ⑦ 映画「インディペンデントリビング」
 - ・ 全国の劇場公開
 - ・ 自主上映会呼びかけ（劇場公開が終わった地域から随時自主上映解禁！）
 - ・ 外国語翻訳・字幕付け（麒麟福祉財団助成）

- ⑧ 対面会議（予定）
 - ・ 2020 年度 8 月 7－8 日

2021年度 インクルーシブ教育プロジェクト事業計画

1. 活動理念

自立生活センターは地域で障害のある人が当たり前で生活することが出来るインクルーシブな社会の実現を目指している。インクルーシブな社会を実現するために、障害者権利条約の一般的意見4号に書かれた、インクルーシブ教育の実現を目指す。

2. 会議

2-1. 定例スカイプ会議

毎月、情報共有や、研修内容の検討等のためにスカイプ会議を行います。

2-2. 対面会議

年に1回、対面会議を行います。

3. プロジェクトメンバー研修

対面会議の際、日本と世界のインクルーシブ教育の状況を専門的に知るために、講師を招き、研修を行います。

4. 総会・全国セミナーでの研修

JIL 総会や、全国セミナーのカリキュラムで、各CILがインクルーシブ教育について、さらに関心を持ち、実際に活動につながるような研修を実施します。

5. CILからの相談対応

各CILに対して、インクルーシブ教育に関する情報提供等のサポートを行います。

6. オンライン交流会

JIL加盟団体とインクルーシブ教育について一緒に考えられる機会をオンラインで開催します。また、依頼に応じて他団体とのオンライン交流も行います。

7. プロジェクトメンバー（敬称略・五十音順）

プロジェクトメンバー：東 佳実（自立生活センター・ナビ）
植田 洋平（ヒューマンネットワーク熊本）
海老原 宏美（自立生活センター・東大和）
長田 直也（CIL小平）
鍛冶 克哉（メインストリーム協会）
畑 俊彦（障害者生活支援センター・てごーす）
長位 鈴子（沖縄県自立生活センターイルカ）
常任委員：中野 まこ（自立生活センター十彩）
藤原 勝也（メインストリーム協会）
オブザーバー：数矢 雄（メインストリーム協会）
佐藤 祐（CILラピタ）
吉嶺 佐恭（沖縄県自立生活センターイルカ）

JIL 脱施設プロジェクト 2021 年度事業計画案

1. 現状

長い運動の結果、地域生活のための法制度が整備され、全国で 1 日 24 時間以上の介助時間が保障されている。しかし、知的、精神、重心、医療的ケアを必要とする難病等の多くの障害者が未だに施設や病院での生活を強いられている。また本来施設から地域生活への移行を目指して整備されたはずの相談支援、地域移行支援や地域定着支援があるにもかかわらず脱施設化あるいは施設閉鎖は一向に進んでいない。

脱施設化に関して諸外国では法制度を整備し、それに基づき国や自治体が財政的な支援を行い脱施設化が推進されている。支援を行った団体だけでなく自立生活を目指す個人に対しても財政的なバックアップがなされている（アメリカ、韓国）。それと比べると日本では脱施設化や閉鎖を目的とした政策づくりが不十分である。

現在、障害者の福祉制度の体系は地域支援と施設支援の二本立てとなっている。スウェーデンもかつては日本と同様二本立てであったが、法律により地域支援一本化となった。施設支援もあるという状態が続いている限り、必要な人もいるという考えが生じるので脱施設化は進まないと言える。障害者の制度を地域生活に限定したものに換え、そのうえで必要な予算を割り出し、脱施設化を進めていく制度が不可欠である。また、障害者が地域で暮らすには国や自治体からの財政出動が増加するので、誰も取り残されない社会を実現するため必要であると市民に納得してもらえよう理解を広める活動も必要である。

2. 活動目的

- ① 筋ジス病棟をはじめとして入所施設の閉鎖を目指す。
- ② 権利条約 19 条の完全履行を求める。
- ③ DPI の 10 年計画に合わせて具体的な計画目標をミッションや中長期計画に盛り込む。
- ④ CIL のネットワークを活用した自立生活サポート。
- ⑤ 脱施設のサービス化の検討。受け皿として介助派遣と並ぶ自立生活センターの事業とする。制度化。
- ⑥ 全入所者に対する自立生活意向調査や脱施設化に向けた法制度づくり、もしくは既存の法制度の改正を国に対して提言。プロジェクトを中心にして JIL 内でアメリカやスウェーデンの法律を参考に「地域生活権利法案」(仮称)を作成する。
- ⑦ DPI をはじめとする障害団体、JIL の各種委員会やプロジェクトと連帯して SDGs が目指す誰も取り残されない社会の実現に向けて組織力を使い障害者が隔離して扱われていることが「正しくないこと」として社会に周知するキャンペーンを行う。

3. 会議

(ア) コア会議／毎月第 2 水曜日 11:00-12:00

JIL 脱施設プロジェクトでは、定例会議を月 1 回開催し、脱施設化に効果的な取り組みを検討し、各団体で取り組めるようにしていく。またステークホルダーとも連携し、合同学習会等での情報なども共有する。

(イ) その他の会議

- ① DPI 日本会議
 1. DPI 地域移行戦略会議／岡本
 2. 鈴木良氏勉強会／岡本・内田 (2 名参加)

4. 研修会

必要に応じ研修会を企画し、脱施設化の機運を高める。コア会議の中で具体的な取り組みを検討する。

5. プロジェクトメンバー

JIL 脱施設プロジェクトでは、JIL 加盟団体からの参加者をコアメンバー、その他のメンバーをオブザーバーとして位置付けています。なお、委員会やプロジェクトを兼任するメンバーから負担を感じるという意見もあり、その在り方を検討していきます。

(ア) コアメンバー

- ・ 藤原 勝也 (メインストリーム協会 / 政策委員会)
- ・ 河本 満幸 (CIL 下関 / 人権委員会)
- ・ 岡本 直樹 (CIL ふちゅう / 人権委員会)
- ・ 船橋 裕晶 (リングリング / 精神 PT)
- ・ 大藪 光俊 (JCIL / 筋ジス PT)
- ・ 李 幸宏 (町田ヒューマンネットワーク)
- ・ 安原美佐子 (自立生活センター・あるる / ピアカン委員会)
- ・ 竹川 友恵 (メインストリーム協会 / 筋ジス PT)
- ・ 岡山 祐美 (JCIL / 筋ジス PT)

(イ) オブザーバー

- ・ 加藤 与一 (自立生活センターくらすべ Akita)
- ・ 山口 和俊 (CIL ころろ)
- ・ 小林 勝 (CIL びんご)
- ・ 井出今日我 (CIL 上田 Groping)
- ・ 内田 由佳 (自立生活センターとくしま)

2021 年度事業計画

JIL 新型コロナウイルス対策本部

2019 年度末に JIL 加盟団体向けの情報提供と共有を目的に設立された対策本部では、今後も新型コロナウイルスの影響が終息しないことが見通されるので、昨年度から引き続き以下の活動内容に沿った行動を行う。

1. 活動計画

- 1 要望書の作成・提出
- 2 メディアとの連携
 - ・新聞各社、共同通信社、民放、NHK、ラジオ局への要望書公開・連絡
- 3 情報収集・提供
 - ・基礎的な情報（基礎知識、日常的な注意事項、濃厚接触の定義）
 - ・関係省庁からの通知等の紹介、HP リンクの紹介（人工呼吸器の確保・増産、事業所向け）
 - ・対応策（利用者・介助者に感染者が出た場合、自宅隔離、簡易陰圧室・陽圧ヘルメット）
 - ・資料（簡易フェイスシールド作成、防護服の作成・着脱、団体においてコロナウイルス陽性反応が出た場合の対応具体例（2 例））
- 4 問い合わせ窓口の運営

JIL 常任委員会からの提案事項

1. 会費規定の改正について

・介助サービス会費の規定を、障害者総合支援法・介護保険制度に基いた訪問介護事業における収入額の 0.6%から 0.5%に減額すること

2. JIL の NPO 化について

・各種の助成金申請時に、法人格の必要性が高まってきていることへの対応等

会 費 規 定 (改 正 案)

第一条 (規約との関係)

この規則は全国自立生活センター協議会会費規定に基づいて会費を支払う義務を追う。

第二条 (年会費)

全国自立生活センター協議会の会員は、年会費を納入しなければならない。

第三条 (年会費の額)

1項. CIL会員

(a) CIL会員のうち障害者総合支援法・介護保険制度にもとづき訪問介護事業を実施しない団体については、財政規模に応じて下記基準のように定める。

(b) CIL会員のうち障害者総合支援法・介護保険制度に基き訪問介護事業を実施している団体については、訪問介護事業部門以外の全部門の総決算額について財政規模に応じて別紙規定のように定められた会費と、訪問介護事業部門の収入額の~~0.6%~~0.5%を合わせた金額を納入する。

2項. 介助サービス会員

障害者総合支援法・介護保険制度に基いた訪問介護事業における収入額の~~0.6%~~0.5%とする。

第四条 (年会費の減額と免除)

特別な事情がある場合には、各会員からの申し出により、常任委員会の承認を得て年会費の減額、免除をすることができる。

第六条 (改廃)

この規則の改廃は、協議員総会での決議によらなければならない。

○ CIL 会員の財政規模と会費算定基準表

センターの財政規模	年額	センターの財政規模	年額
～100万未満	8,000	6,000～7,000万未満	108,000
100～500万未満	12,000	7,000～8,000万未満	120,000
500～1,000万未満	18,000	8,000～9,000万未満	132,000
1,000～1,500万未満	24,000	9,000万～1億未満	144,000
1,500～2,000万未満	36,000	1～1.1億未満	156,000
2,000～2,500万未満	48,000	1.1～1.2億未満	168,000
2,500～3,000万未満	60,000	1.2～1.3億未満	180,000
3,000～4,000万未満	72,000	1.3～1.4億未満	192,000
4,000～5,000万未満	84,000	1.4億～	200,000
5,000～6,000万未満	96,000		

平成16年2月24日 制定

平成27年6月26日 改定

(令和3年6月23日 改定?)

●C I L 会 員 (C I L 本 体)

財政規模に応じた会費額とする。

財政規模 (万円)	月額(参考値)	年額	財政規模 (万円)	月額(参考値)	年額
~100 未満	—	8,000	6000~7000 未満	9000	108,000
100~500 未満	1000	12,000	7000~8000 未満	10000	120,000
500~1000 未満	1500	18,000	8000~9000 未満	11000	132,000
1000~1500 未満	2000	24,000	9000~1 億未満	12000	144,000
1500~2000 未満	3000	36,000	1 億~1.1 億未満	13000	156,000
2000~2500 未満	4000	48,000	1.1~1.2 億未満	14000	168,000
2500~3000 未満	5000	60,000	1.2~1.3 億未満	15000	180,000
3000~4000 未満	6000	72,000	1.3~1.4 億未満	16000	192,000
4000~5000 未満	7000	84,000	1.4 億~	—	200,000
5000~6000 未満	8000	96,000			

●介助サービス会員 (介助派遣団体)

会費額を介助派遣団体の年間売上げ (介助者への賃金を差し引かない、純粹に市から委託費として振り込まれる金額) の ~~0.6%~~ **0.5%** (売上げ \times ~~0.006~~ **0.005**) とする。

<p>* 例 * 年間売上げが 5000 万円 → 5000 万 \times 0.005 = 25 万円 / 年 1 億円 → 1 億 \times 0.005 = 50 万円 / 年</p>
--

●同一団体において介助派遣と C I L の活動を行なっている団体の対応について

介助派遣を別団体として行っている団体との公平性の点から、部門別の決算を合計した金額でそれぞれの会費設定方法より合算した金額をお願いします。ただし、各団体の状況に応じ個別の対応を行います。

(会費額について)

C I L 会 員 会 費 = 介 助 部 門 以 外 の 全 部 門 の 総 予 算 額
+ 介 助 サ ー ビ ス 会 員 会 費 = 介 助 派 遣 部 門 の 売 上 げ の ~~0.6%~~ **0.5%**

合計金額 = 年会費額

NO	事業所名	〒	住所	電話番号	FAX番号
*	全国自立生活センター協議会	192-0046	東京都八王子市明神町4-11-11 シルクヒルズ大塚1F	042-660-7747	042-660-7746
1	自立生活センター・さっぽろ	003-0022	北海道札幌市白石区南郷通14丁目南2-2ニュー南郷サンハイツ1F	011-867-5699	011-862-2777
2	自立生活センター北見	099-0878	北海道北見市東相内町250-3桑原ビル1階	0157-36-8755	0157-36-8755
3	CILラピタ	070-0036	北海道旭川市6条通13丁目58番地5上北ビル403	0120-300-370	0120-300-370
4	自立生活センターPingあおもり	038-0011	青森県青森市篠田1丁目8-1エムズコーポ101	017-761-2745	017-761-2746
5	自立生活センター青森	030-0853	青森県青森市金沢3-25-15	017-718-7107	017-718-7177
6	CILもりおか	020-0863	岩手県盛岡市南仙北2-27-1鈴木ビル1階2号室	019-636-0134	019-681-0820
7	CILほっとらいふ	999-4112	山形県北村山郡大石田町緑町13-15サンコーポ・グリーン503号室	0237-35-5510	0237-53-0080
8	NPO法人 ILセンター・福島	920-8141	福島県福島市渡利字櫛町1-1	024-523-0525	024-523-0534
9	NPO法人 あいえるの会	963-8022	福島県郡山市西ノ内2丁目11-15	024-921-3567	024-925-4558
10	NPO法人 いわき自立生活センター	970-8047	福島県いわき市中央台高久2丁目26-4	0246-68-8925	0246-68-8926
11	障がい者自立生活支援センター福祉のまちづくりの会	963-4317	福島県田村市船引町東部台2-285	0247-82-2909	0247-82-5508
12	つくば自立生活センター・ほにやら	305-0005	茨城県つくば市天久保2-12-7アウスレーゼ1階	029-859-0590	029-859-0594
13	CILいろは	311-4141	茨城県水戸市赤塚1-1970-5KTMビル1-B	029-252-8486	029-252-8487
14	NPO法人 自立生活センターとちぎ	321-0923	栃木県宇都宮市下栗町2947番地8イースタンビュア103	028-638-2538	028-638-2538
15	CIL上州Project	373-0036	群馬県太田市由良町1080-3タカラビル101号室	0276-55-2164	0276-55-2164
16	自立生活センター・遊TOピア	360-0013	埼玉県熊谷市中西1-1-1	048-526-6760	048-526-6760
17	CILわらじ	344-0021	埼玉県春日部市大場1288-1	048-738-4593	048-738-4593
18	自立生活センター所沢	359-0044	埼玉県所沢市松葉町12-3アーガスヒルズ58-1階	04-2001-2981	04-2930-3863
19	NPO法人 船橋障害者自立生活センター	273-0004	千葉県船橋市南本町8-25ラックス船橋	047-432-4554	047-432-4565
20	新宿ライブ・ケア・センター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-17-29西北コーポ102	03-3205-2581	03-3205-2582
21	自立生活センターSTEPえどがわ	133-0065	東京都江戸川区南篠崎町3-9-7	03-3676-7422	03-3676-7425
22	精神障害者ピアサポートセンターこらーるたいとう	131-0033	東京都墨田区向島3-2-1向島パークハイツ1階	03-5819-3651	03-5819-3652
23	自立生活センター・北	114-0001	東京都北区東十条4-14-1宇賀神ビル1F	03-5390-5639	03-5390-5624
24	NPO法人 自立生活センターHANDS世田谷	154-0021	東京都世田谷区豪徳寺1-32-21スマイルホーム豪徳寺1階	03-5450-2861	03-5450-2862
25	自立生活センターたいとう	110-0012	東京都台東区竜泉3-19-7	03-5603-0821	03-5603-0834
26	スタジオIL文京	113-0021	東京都文京区本駒込3-15-10-1F	03-5814-9225	03-5814-9226
27	NPO法人 レイ	173-0024	東京都板橋区大山金井町27-8	03-5926-6296	03-3554-6125
28	CILちょうふ	182-0026	東京都調布市小島町2-21-5-1F	042-446-0683	042-446-2683
29	CILふちゅう	183-0055	東京都府中市府中町2-20-13丸善マンション1F	042-314-2735	042-314-2736
30	NPO法人 自立生活センター・立川	190-0023	東京都立川市柴崎町2-10-16オオノビル1/2F	042-525-0879	042-521-3134
31	自立生活センター・昭島	196-0025	東京都昭島市朝日町3-18-12ジュネスセキモト1F	042-545-7553	042-545-7637
32	自立生活センター・東大和	207-0014	東京都東大和市南街1-22-6シティーコート南街1F	042-567-2622	042-567-2912
33	CILくにたち援助センター	186-0004	東京都国立市中1-18-35国立ヒルズ101	042-572-3767	042-573-5987
34	自立生活センター・日野	191-0031	東京都日野市高幡2-9ウイステリアガーデン1F	042-594-7401	042-594-7402
35	NPO法人 町田ヒューマンネットワーク	194-0013	東京都町田市原町田2-22-26プリモレガロ町田1F	042-724-8599	042-724-7996
36	みたか街かど自立センター	181-0012	東京都三鷹市上連雀4-1-8福祉コアみれん内	0422-48-0648	0422-48-0648
37	生活援助センター	202-0012	東京都西東京市東町2-1-4芹澤ハイツ101	042-425-5805	042-425-5806
38	どろんこ作業所	202-0021	東京都西東京市東伏見6-1-36	042-461-8364	042-461-8364
39	NPO法人 自立生活企画	188-0011	東京都西東京市田無町5-6-20第2和光ビル202号	042-462-5999	042-462-5955
40	自立生活センター・小平	187-0003	東京都小平市花小金井南町1-18-45-101F	042-467-7235	042-467-7335
41	NPO法人 自立生活センター・グッドライフ	203-0014	東京都東久留米市東本町14-7滝ビル1F	042-477-8384	042-477-8394
42	ヒューマンケア協会	192-0046	東京都八王子市明神町4-14-11F	042-646-4877	042-646-4876
43	ILみなみTama	192-0364	東京都八王子市南大沢2-25フォレストモール南大沢208	042-682-5343	042-682-5342
44	神奈川県障害者自立生活支援センター	243-0035	神奈川県厚木市愛甲953-2	046-247-7503	046-247-7508
45	自立の魂	231-0052	神奈川県横浜市中区英町3-4	045-341-0007	045-341-0888
46	自立生活支援センター・富山	930-0024	富山県富山市新川原町5番9レジデンス新川原1F	076-444-3753	076-407-5557
47	Com Support Project	910-0004	福井県福井市宝永2丁目11-12山屋ビル1F	0776-25-1057	0776-25-1040
48	にいがた自立生活センター・まいらいふ	950-2002	新潟市西区青山1丁目23-15	025-378-5140	025-378-5141
49	静岡障害者自立生活センター	422-8006	静岡県静岡市駿河区曲金5-4-58	054-270-6380	054-287-4922
50	障害者生活支援センター・おのころ島	426-0016	静岡県藤枝市郡1-3-27	054-641-7001	054-641-7181
51	アシストMIL	411-0847	静岡県三島市西本町10-26	0559-76-3432	0559-76-3432
52	浜松自立支援センター	430-0815	静岡県浜松市都盛町29-3	053-570-2340	053-427-1702
53	自立生活センターこねくと	435-0055	静岡県浜松市中区十軒町58	053-525-8731	053-525-7681
54	自立生活センター富士	416-0922	静岡県富士市水戸島元町9-10ふたばビル1階	0545-32-7978	0545-32-7978
55	AJU車いすセンター	466-0037	愛知県名古屋市中区恵方町2-15	052-851-5240	052-851-5241
56	自立生活センター・生活塾	452-0814	愛知県名古屋市中区南川192若草マンション1F	052-506-8733	052-506-8736
57	自立生活センターekumo	456-0058	愛知県名古屋市中区六番1-5-7	052-228-9737	052-228-9738
58	岡崎自立生活センターびあほうす	444-0038	愛知県岡崎市伝馬通5-47	0564-26-5080	0564-26-5080
59	自立生活センター十彩	471-0871	愛知県豊田市元宮町6-19	0565-31-1117	0565-85-8185
60	CIL・ARCH(シーアイエル・アーチ)	514-0823	三重県津市半田399-1	059-389-5668	059-389-5669

61	自立生活センター・湖北	526-0015	滋賀県長浜市神照町277-1	0749-63-3651	0749-63-3652
62	CILだんない	529-0423	滋賀県長浜市木之本町千田681-4	0749-50-3639	0749-50-3961
63	日本自立生活センター	601-8036	京都府京都市南区東九条松田町28メゾングラス京都十条101	075-671-8484	075-671-8418
64	自立生活センターアークスペクトラム	615-0022	京都府京都市右京区西院平町6三喜ビル1F	075-874-7356	075-874-7356
65	自立生活センタースリーピース	606-8365	京都府京都市左京区新富小路通仁王門下の讚州寺町223ルシエル三条大橋1F	075-751-2711	075-275-8736
66	自立生活センター・MY・DO～まいど～	558-0002	大阪府大阪市住吉区長居西1-9-12キミハウス1F	06-6209-3133	06-6209-3210
67	自立生活センター・ナビ	546-0042	大阪府大阪市東住吉区西今川2-3-8	06-6760-2671	06-6760-2672
68	障害者自立生活センタースクラム	551-0002	大阪府大阪市大正区三軒家東1-12-27アドヴァンスライフ101号	06-6555-3509	06-6555-3520
69	自立生活センター・あるる	534-0027	大阪府大阪市都島区中野町3-4-21ベルエキップ・オグラン1階	06-6355-3701	06-6355-3702
70	自立生活夢田センター	559-0024	大阪府大阪市住之江区新北島1-2-1オスカードリウム2F	06-6683-1053	06-4702-4738
71	障害者生活支援センター・いきいき	540-0006	大阪府大阪市中央区法円坂1-1-35アネックスパル法円坂5階	06-6940-4185	06-6943-4666
72	自立生活センター・Flat・きた	533-0014	大阪府大阪市東淀川区豊新2-5-1シャトー玉川第一103	06-6325-9992	06-4307-3673
73	障がい者福祉総合支援センターいちいちまる	547-0012	大阪府大阪市平野区長吉六反3丁目6番30号サンブレール1階	06-6777-3014	06-6777-3084
74	NPO法人 ムーブメント	545-0052	大阪府大阪市天王寺区大道3丁目1-26	06-4302-5203	06-4302-5243
75	自立支援センター『ばあとなあ』	578-0935	大阪府東大阪市若江東町2丁目1-6	06-6722-7760	06-6722-7761
76	CIL豊中	560-0033	大阪府豊中市壱池中町2-3-1ルシオーレ南棟305	06-6857-3601	06-6857-3602
77	自立生活センターいしずえ	574-0011	大阪府大東市北条5丁目8-7	072-876-1936	072-876-6442
78	NPO法人 自立生活センター・ほくせつ24	567-0824	大阪府茨木市中津町3-26	0726-38-1466	0726-38-1633
79	NPO法人 自立生活センターリアライズ	595-0071	大阪府泉大津市助松町1-3-33エクセラート北助松1F店舗4	0725-22-7716	0725-22-7746
80	自立生活センター・いこらー	596-0004	大阪府岸和田市荒木町1-13-3ライフパートⅢ101号	072-488-7334	072-488-7338
81	自立支援センター・たかつき	569-0082	大阪府高槻市明野町10-15ぶりんせす明野1F	0726-72-1294	0726-72-1294
82	NPO法人 自立生活センター・やお	581-0004	大阪府八尾市東本町3丁目3-10-101	0729-24-5353	0729-98-9979
83	自立生活センター・神戸Beすけっと	653-0812	兵庫県神戸市長田区長田町5丁目3-22	078-641-6618	078-641-6632
84	自立生活センターリングリング	652-0801	兵庫県神戸市兵庫区中道通6-3-12-101	078-578-7358	078-578-7358
85	NPO法人 姫路自立生活支援センター	670-0808	兵庫県姫路市白国1丁目2番15号コーポあまの21-2	0792-24-1398	0792-24-1398
86	自立生活センター・オフコース	669-1347	兵庫県三田市つづしが丘南3丁目8-9	0795-68-3796	0795-68-3796
87	NPO法人 障害者生活支援センター遊び雲	662-0862	兵庫県西宮市青木町12-5	0798-75-6340	0798-75-6341
88	メインストリーム協会	662-0844	兵庫県西宮市西福町9-3	0798-66-5122	0798-66-5133
89	聴覚障害者自立生活センターLIC	662-0851	兵庫県西宮市中須佐町5-12	0798-34-5933	0798-61-2447
90	NPO法人 自立生活支援センターフリーダム21	630-8102	奈良県奈良市般若寺町285-2	0742-23-9064	0742-23-9064
91	自立生活センター・サポート24	630-8113	奈良県奈良市法蓮南町1027-1若草ハイツ1F	0742-26-6150	0742-26-6153
92	自立生活応援センター和歌山チャレンジ	640-8323	和歌山県和歌山市太田47-7	073-472-6731	073-472-3177
93	障害者生活支援センターすてっぷ	683-0064	鳥取県米子市道笑町2-126-4稲田地所第5ビル1F	0859-37-2120	0859-37-2121
94	岡山自立生活応援センター	700-0026	岡山県岡山市奉還町4-7-12共生ビル1F	086-253-5100	086-253-5100
95	NPO法人 障害者生活支援センター・てごーす	733-0025	広島県広島市西区小河内町2-7-5Yビル1階	082-294-4185	082-294-4184
96	障害者サポートセンターtogether 広島	731-0103	広島県広島市安佐南区緑井2丁目25-24	082-831-6066	082-559-2109
97	CILおのみち	722-0215	広島県尾道市美ノ郷町三成1217-1	0848-38-9550	0848-38-9567
98	自立生活センター・松江	690-0056	島根県松江市雑賀町695番地	0852-25-3372	0852-25-3372
99	CIL下関	751-0872	山口県下関市秋根南町1-1-5	0832-63-2687	0832-63-2688
100	自立生活センター宇部	755-0045	山口県宇部市中央町3-2-7	0836-29-6192	0836-29-6193
101	自立生活センター・高松	761-8057	香川県高松市田村町1200-1	087-866-6317	087-866-6319
102	NPO法人 自立生活センター松山	790-0813	愛媛県松山市萱町2-8-2山田ビル一階	089-986-3245	089-935-6782
103	自立生活センター星空	791-8025	愛媛県松山市衣山2-6-50グレイス衣山東101号	089-989-8336	089-989-7420
104	北九州自立生活センター	802-0077	福岡県北九州市小倉北区馬借2-5-19	093-541-5000	093-541-5770
105	自立生活センター・エコー	802-0217	福岡県北九州市小倉南区下曾根1丁目2-33	093-280-7828	093-280-7841
106	自立生活センターぶるーむ	802-0085	福岡県北九州市小倉北区吉野町10-19 パークプラザ三萩野 3階	093-482-4832	093-482-4878
107	自立生活センター・ちくご	833-0031	福岡県筑後市大字山ノ井4-1	0942-53-6468	0942-54-2307
108	自立支援センターおおいた	874-0942	大分県別府市千代町13-14ユニバーサルマンション2F	0977-27-5508	0977-24-4924
109	自立生活センターぐっどらいふ大分	874-0014	大分県別府市亀川浜田町33組18の4サクセスハイツマルコ201号	0977-75-7775	0977-75-7763
110	障害者自立応援センターYAH! DOみやざき	880-0842	宮崎県宮崎市青葉町52番地1	0985-31-4800	0985-75-0150
111	ヒューマンネットワーク熊本	862-0959	熊本県熊本市白山2-1-17梅香園ビル1F	096-366-3329	096-366-3359
112	自立生活センターてくてく	890-0045	鹿児島県鹿児島市武1-28-10-102	099-208-0527	099-208-0527
113	NPO法人 沖縄県自立生活センター・イルカ	901-2221	沖縄県宜野湾市伊佐4-4-1	098-890-4890	098-897-1877
114	北部自立生活センター希輝々	905-0015	沖縄県名護市大南4丁目8-32	0980-54-1559	0980-54-1559
115	自立生活センターまんだ	906-0012	沖縄県宮古島市平良字西里790-2	0980-79-0341	0980-79-0324
116	自立生活センター南十字星	907-0001	沖縄県石垣市宇大浜56番地11F	0980-87-0758	0980-87-0758



Japan Council on Independent Living Centers
全国自立生活センター協議会

東京都八王子市明神町 4-11-11 シルクヒルズ大塚 1F

TEL : 042-660-7747

FAX : 042-660-7746

JIL はキリン福祉財団の助成を受けて活動しております

所属先

名前